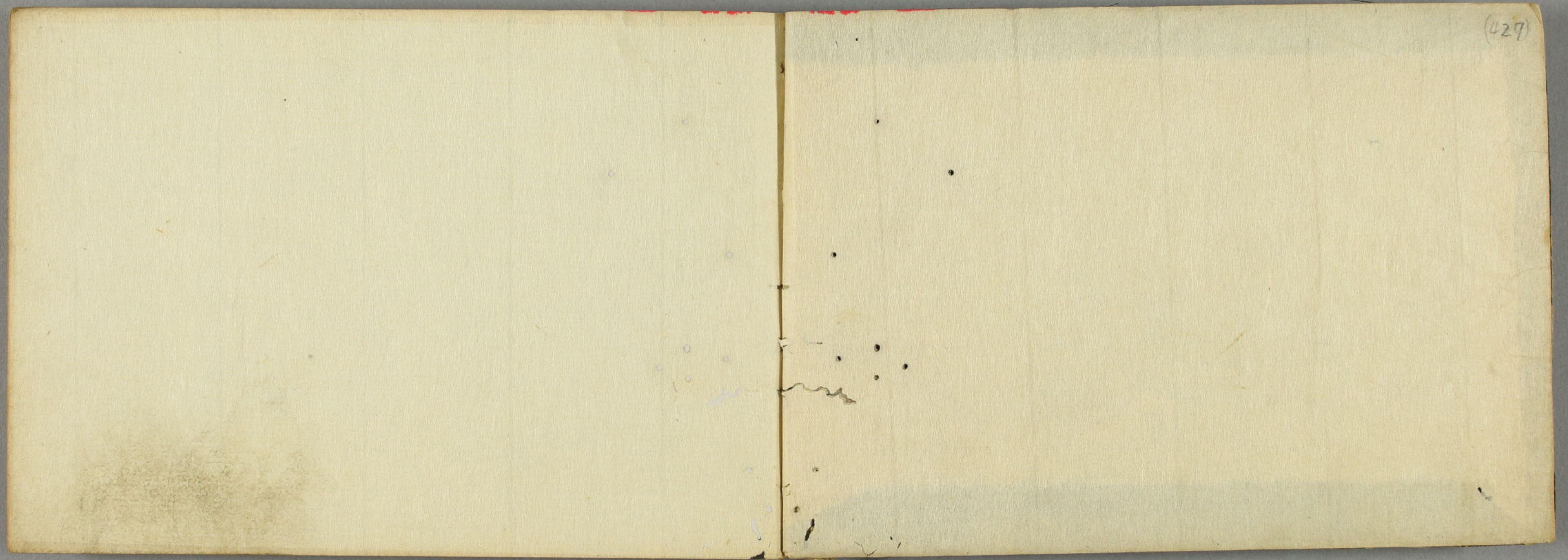


73  
3645  
427





(427)



門 73  
號 3645  
卷 427

本間文庫



廿八 莊羽綱目

廿九 大刀各所

三十 書院師

卅一 荷圖

卅二 宮參行列

卅三 灰押形

卅四 貝合

卅五 胸字

卅六 雜學集

卅七 獻立

卅八 土器才法

卅九 淨嫁入道具師

四十 產著仕立

四十一 踏禮大道具

四十二 淨厨子三莊

四四 懷孕著袴

四五 入部行列

四六 徒後行列

四七 婿禮席端

四八 同 行列

四九 鉈子授子

卅六 獻立口傳卷

ソウメイ コウモク  
莊明綱目卷  
イワシノアキカアミン目ノトク 細カナルノ意

浄厨子棚寸法

糸面ハ細ト  
角ヲ取事  
此厨子足寸小二尺寸柱太サ六分半

上ノ板左右ノソリ  
タルハ半返ト云  
此棚ノ足ヲ蝶足  
ト云  
コニ大サ画ク  
別巻寸法ノ巻ニ  
出ル

厨子横二尺寸  
麻ノ口ニ海大  
と修より

七寸 七寸 二寸五分  
等三分絶  
足寸五分

黒棚寸法

此棚半返ナシ  
足寸五分  
足寸一尺

大黒ニ画ク  
下別巻寸法  
ノ巻ニ出タリ

七寸二分半 七寸 四寸五分  
足寸七分

他流ノ飾付ヲモ  
集タレリ

浄厨子  
近流殿浄流の條

子箱 大文入こ 小文入こ

旅鏡臺トハ  
箱仕入タル  
旅鏡臺  
短尺入こ  
守留  
水門  
かきり

くろまきか

枕カクハ白  
長ハ白  
くろまきか  
枕カクハ  
白  
くろまきか

白  
くろまきか  
肩作こ  
枕カクハ  
白  
くろまきか

基盤

局基  
基盤  
局ノ寸法一尺二寸八分一年を  
表ノ寸法一尺七分九釐

を敵九つの壁目あり 互目一寸  
 横八分あり 厚一寸五分 土  
 禁中の法に地ハ三寸八分 横目七分  
 厚一寸五分 互目一寸八分

### 将素むん

長き一丈一寸九分  
 横一丈九寸  
 厚二寸三分

厚二寸九分  
 厚二寸二分  
 厚二寸二分

### 双六盤

双六高寸法に素を表して 厚一寸  
 厚一寸二分 長一丈二寸 厚一寸二分  
 の目りりあり 二寸の長を三寸五分上  
 付とを二寸五分と 貴人の友小橋の  
 備の寸法を七寸幅寸五分の  
 寸五分を二寸五分の寸法を付り  
 法の長二寸五分 厚一寸五分

### 圓桶寸法一番

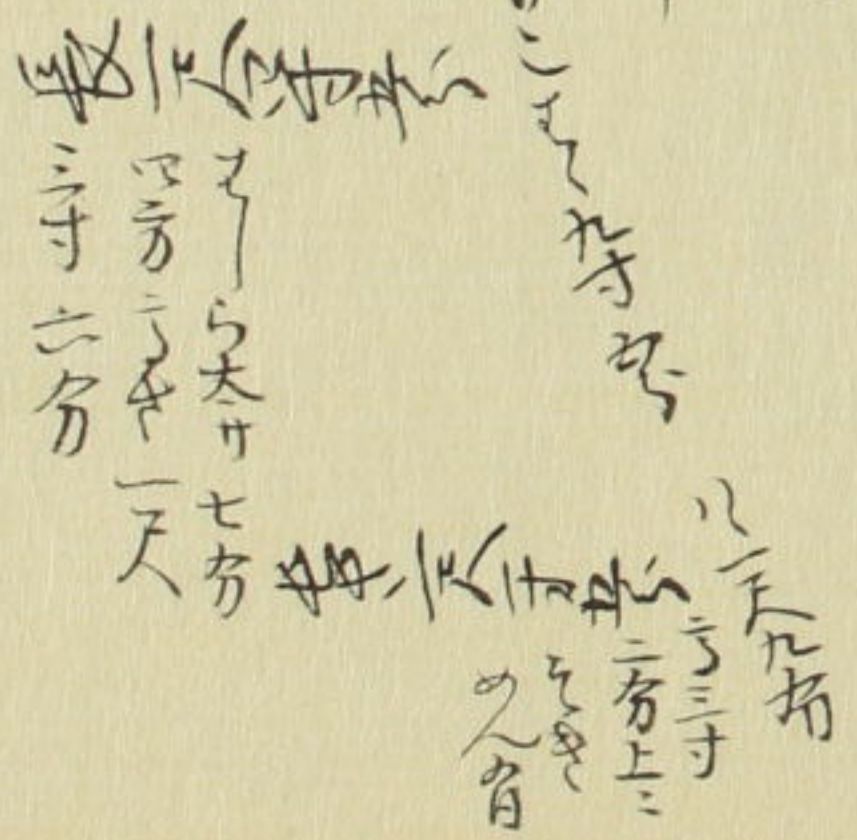
指一丈一寸八分 厚一丈一寸九分  
 厚一寸五分 厚一寸九分  
 二寸五分の寸法一寸七分 互目一寸五分  
 厚一寸五分  
 右一寸五分

八角式六角桶付の底不足  
 是より十文字と打は 不徳  
 社と打帯の箱の寸法 不徳  
 知地貝と女と知り 出貝の男  
 元知りしむる寸法

### 双紙箱

寸法本  
 寸法本

### 見立



耳與六寸ト云

### 耳手洗

おハ一寸五分あり 厚一寸五分  
 厚一寸五分

### 淨勢貞衛傳

志す板を二寸八分  
 厚一寸五分  
 厚一寸五分

伊勢流の浄し  
 正徳の寸法

ツルシロトシノツボノ金物  
ツルシロトシノ金物  
ツルシロトシノ金物  
ツルシロトシノ金物  
ツルシロトシノ金物

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

大工  
大工  
大工  
大工

規式番番對面ノ月  
大内三年大ノ節テ  
吹セテナリ

一 清厨子棚 一 勝里棚 一 勝と名

大内所厨子所置六  
厨子ノ居間ニカケル  
鏡ヲ三神ノ神あり

表云シ勝大ノ一  
神代徳ノスツ野  
仲父母ニヤクテ

花咲キ雅ナリ足ヲ  
スツノハサリヤ  
紫出見事ト申ス

山ヲ出見ニ後海ヲ  
スツノハサリヤ  
タレ山狩ニテ有

取カヘテ遊ニテ出見  
カト云々  
カト云々

リ仍ニ徳ノスツノハ  
近ニテハ石交取  
ナク有シテ

云々人跡宮ノ道ヲ  
仍出見事宮ニテ  
禮玉城手ヤリ

神ノ御垣ヲ守トテ  
大ニ徳ノスツノハ  
嗣新シ依ル

大内 黒殿ヲ表ス  
黒殿ニ化極ノ向

勝ノ麻ノ名ハ大里  
未始昌ノ祝也

古語ニ曰俗人  
不修形

君更々云テ對面  
ノ左黒棚ハ

奇書斗ニ勝  
又ノ度キ

目極ニテ  
也上テ

出見陽  
三ノ百ニ

是を二ツ  
七百二十

年中ノ日  
敷を

地見ハ合  
口ノ不

二百ノ完  
入ノ地見

内ノ分  
入ノ地見

燈籠の時  
入ノ地見

あつて十二  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

入ノ地見  
入ノ地見

神武天皇御世  
又神武天皇御世  
に於ては

傳不三言天子の外言られり古員  
一 入是言詔員と云行て入

一

神武天皇御世

草昔不念その

又ハ玉依姫トテ新女ト云々ト

ホウノセテ七取の内ハ必ク居居と

見ホウノセテ居居ト云々の海に

テトシテハ海の方地ト云々ト

ノミヤノ所方ハ海の方ト云々ト

不審不審ハ海の方ト云々ト

内ト云々の見ホウノセテ居居

テ新女ト入居ト云々ト

尾の寄り居ト是と云々ト

のこ一海と云々ト

裾と居居ト云々ト

は海の方ト云々ト

七夜の白雲ト云々ト

小室と云々ト云々ト

は皇子のあり神武天皇と

古云ハハハ下りの水と

わたり居居ハ海の方ト

わく貝桶を海の方ト云々ト

けりもけりあり又非員不念

るも陰陽和合のふり

神武天皇御世  
一

貝桶三角式八角

一入居居

貝桶三角式八角

是古法ト云々ト

みし居居ト云々ト

あり法師の奇

今と云々ト云々ト

くし合やと云々ト

一  
カウラ巻身  
二節蓋三節  
三節蓋一節

あり法師の奇

今と云々ト云々ト  
くし合やと云々ト



龍貝の月...  
又河...  
ツツ...

いせの西二尺の浦あり今を  
奈名の蛤を用ひ作りし可く  
さう磯名にハ塔の名ありみなり  
まゝ胡解西の蛤貝もよき  
とつて

貝の...  
ハカ...

貝の...  
ハカ...

口貝十二...  
是ハ...

貝の...  
ハカ...

口貝十二...  
是ハ...

貝の...  
ハカ...

口貝十二...  
是ハ...

貝元の...  
入左...

梅原...  
貝元...

貝の...  
左...

貝の...  
左...

貝の...  
左...

貝の...  
左...

貝の...  
左...

貝の...  
左...

貝の...  
左...

貝の...  
左...



一扇まこ

黒棚の道具

一榊まこ 一角布方小

一松まこ 一箇運込入りのまこ 手付おき

一掃まこ 一肩足袋

一乱まこ この御子に候はま合ひ候ふと申す 一肩足袋 又まこ

一水しりまこ 一足巾すまこ

一水しりまこ 一そのひの犬

一かましりまこ 一りりろ

一いしりまこ 一ましりまこ

一ちんまこ

一かしりまこ

一ゆしりまこ

一油のゆ

一いしりまこ

一洗しりまこ

ヤリくい若野氏に  
世すの三ヤリ  
三三三三三  
挿ス

一此のまこ 一硯まこ

一文まこ 一ぬしりまこ

一白のまこ 一白しりまこ

一さしりまこ

一掛子しりまこ

一多しりまこ

一ゆしりまこ

一あしりまこ

一さしりまこ

一くしりまこ

一けしりまこ

一あしりまこ

一なしりまこ

一としりまこ

一をしりまこ

一にしりまこ

一はしりまこ

一をしりまこ

一としりまこ

振筆ハ古頃の  
白のまこ

下は少しと申す  
三三三三  
二面  
ハハハハ  
ハハハハ

香しり  
カサレしり  
ハハハハ  
ハハハハ



新神の御魂を  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に

一 辨をこ振き天をりさる守  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に  
御魂を御魂に

御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を

一 大角赤うす  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を

御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を

一 少刀之儀の  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を

御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を

一 御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を  
御魂の御魂を

入吉あつたははるまにぞをけて  
口祝のちり架とくらわね  
あつたつてあつ

内研<sup>しつら</sup>の相  
式<sup>の</sup>相<sup>の</sup>相<sup>の</sup>  
あつたつてあつ  
あつたつてあつ  
あつたつてあつ  
あつたつてあつ  
あつたつてあつ

一毛きれ箔とハ判力とこの  
夏之女中あつていれぬれり  
飛もことと云ハかけ子三全之  
津屋あつたつてあつとみく  
あつたつてあつと天のかり  
あつたつてあつとちり  
あつたつてあつとちり  
あつたつてあつとちり  
あつたつてあつとちり

一肩他もこまもこのあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと

藤屋のあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと

あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと

あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと

あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと

あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと

あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと

あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと

あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと

あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと  
あつたつてあつと

あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと  
あつたつてあつとあつと

印の字を  
三をのり  
年あり

この山は... 水門... 此の山は... 水門... 此の山は...

上右... 扶南... 扶南... 扶南...

上右の... 扶南... 扶南... 扶南... 扶南...

守りし... 守りし... 守りし...

守りし... 守りし... 守りし... 守りし...

源氏の... 源氏の... 源氏の...

源氏の... 源氏の... 源氏の... 源氏の...

入る... 入る... 入る...

入る... 入る... 入る... 入る...

そのまゝに  
包み用又  
しるし

一 くれお丹の唐紙をよみ合限  
赤黄赤の紙八枚を切  
口を分りしき、あてきし  
きりくと云ふ所

西へつて一  
くは修験の  
なりと、  
なをきりし  
のひのひの  
のゆ

一 唐厨子の唐紙を黒き紙  
きりて、ハクハク、  
の唐紙をみきり、  
志く久く、  
車わり時とす

しるし  
しるし

一 糸のす法、  
あきく、  
唐厨子、  
ろよきを、  
極事、  
りり又、  
たのこ、  
おこり、  
おん分、

しるし  
しるし  
しるし

一 唐厨子、  
ろよきを、  
極事、  
りり又、  
たのこ、  
おこり、  
おん分、

よき也 法をよき也 一 唐

しるし  
しるし  
しるし

一 唐厨子、  
ろよきを、  
極事、  
りり又、  
たのこ、  
おこり、  
おん分、

しるし  
しるし

一 唐厨子、  
ろよきを、  
極事、  
りり又、  
たのこ、  
おこり、  
おん分、

一 唐厨子、  
ろよきを、  
極事、  
りり又、  
たのこ、  
おこり、  
おん分、

内侍  
神

一 唐厨子、  
ろよきを、  
極事、  
りり又、  
たのこ、  
おこり、  
おん分、



後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

多き極む  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

化すのり  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

十粒者  
くも

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも

一 後花の馬きふの根は花

一

中...  
五分  
七分  
十分  
五分  
七分  
十分

一 後花の馬きふの根は花

一 後花の馬きふの根は花  
も多し極む  
化すのり  
くも



右の形は、  
巾着に入ると  
巾着口を閉じた  
状態を示す。

入の耐力をせりりかん方内  
かく巾着を入り巾着口を  
きりしやとひらめく。さう小  
神をのせしりやりのいふは  
りつゝいしと他國へ供物を  
しつしや桂より別唐菓を  
り梅のさけり別唐菓を  
か巾着を携出しりしや  
是古法の謂ふにり

### 一唐棧才法

又のさけ

かしのさけ

足取さけ

名下のさけ

寸二方のさけ

足取合二五九

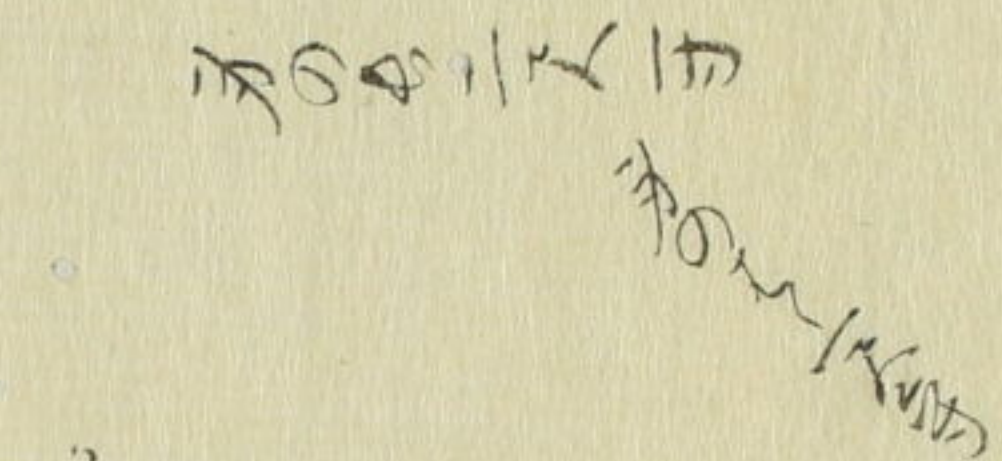
足取すり

一寸二方のさけ

二寸二方のさけ

かしのさけ

足取すり  
二寸二方のさけ



古法を伝  
二人はラカ  
あきくんの  
二つあきく  
二つあきく

足取すり  
法を伝  
唐菓を  
足取すり  
法を伝  
二人はラカ  
あきくんの  
二つあきく  
二つあきく

二寸二方のさけ  
則ち

一唐棧才法を天八寸五方のさけのさけ  
かしのさけの法は、  
付二寸二方のさけを  
けりしやけりしや  
けりしやけりしや  
けりしやけりしや  
けりしやけりしや  
けりしやけりしや

足取すり  
二寸二方のさけ

ていしんをきかす  
む一高こりよりあがり  
二ツたかしくも  
一ツと一合と云はる

寸法  
ちんぽう  
ありあり  
四もあ

一 高す法

長四寸五分 横三寸五分  
又長二寸五分 横一寸五分  
かしのこくわん

一 小せき

小せき  
入方内めえそりあり  
えん板板のあさ  
より大きぬり小せき  
廣さす

子守の板  
おすき  
の板  
七すち分

わん  
見  
中  
入る

あつちの名

一 紀望

解門  
のあさ  
良源集  
とも名

一文  
今の  
女房

文房の諸書

山崎の書

久松小清くれば人のあは  
出たる茶あむ物の中をそ  
もぬる

一文彦す法書、一人八寸五分  
とす、尺寸猶足る寸寸又ハ  
寸寸板の何れも、定分  
近略ねは、やう、寸法は、  
尺をたう、一寸打、寸  
より、文彦ハ一端と云

一奇取、ハ、常の取、  
せ、  
一、  
屋の上、  
り、  
平巻と云、

おき、  
長二寸三分  
但八角  
白鯧  
此令、  
桂、  
桂、

世九 太刀之名取巻

諸名、  
東、

衛有太刀 読様口傳

長二寸三分

甲金

白鯧

桂

海松草海藤

画

赤キハスホウ青キハ黒担  
中ニ貝ツクシ海松草  
貝ヲ入ルハ翳ノ名ヲ本地  
螺細ト云

一丁足

二丁足

烏帽子形

石突一寸二分  
幅一寸一分

画

衛府太刀柄白鯨目貫二階菱  
或家紋空目貫五所表丸裏  
菊形表之方露有之結傳  
足緒長九尺平緒可付也

持太刀

左右巻太刀  
多衣冠用  
甲金二寸三分

或一寸八分  
幅一寸一分  
紋二十三

是ラ勅方ト云ニ  
武家衣冠ニ偏ス儀  
等ノ片ニ持セ持太刀  
尺三ナリ者上ニ  
用  
武家モ衣冠ニ上  
如ク野太刀等  
ハヤセラル目持  
侍従上モ云

野太刀等草緒ニテ  
付ルヤマキタクボク  
ノ緒ニテ付ルナリ

糸不捻是ラ  
天刀巻ト云

地金襴者セ菱  
卷ナリ但糸不捻

目貫

葵汚

草ノ紋裏鉾ヲ  
コウシト云

長手幅一寸二分

一丁足

草先一寸七分

長二寸三分幅一寸

二丁足

ヒカ(巻)

一ノ責紋ハツ

股ヨロ六寸三分故

セノ或六寸八分

二ノ責表裏故セフ

三ノ責故セフ

取ヲイト云

石突ト云

一寸三分或一寸九分

故二十二

經口又イクナカ  
コトト云事唐玉ノ經  
カヲノニカヲ水ニ  
ラ所上タルト云リ  
柄ヲ舞ヒト云是ラ  
勅ノ口ヲモ云

〇足間止す

此アミリ巻物カレラ  
以テヤミト云カ又  
左巻トハ左ミリ  
右ミリ柄ヲ巻ラ  
ハミミナリ

長一尺一寸三分  
幅一寸二分

長一尺一寸三分  
幅一寸二分

長一尺一寸三分  
幅一寸二分

長一尺一寸三分  
幅一寸二分

左右卷持太刀氏  
云拓サハナシ  
足間ノ中ヲ金襴  
ニ包テ結ニ足  
方ヲ長ク取テ付  
トナリ

一持太刀柄錦金襴ヲ以包糸不  
捨卷也目貫右同ニ足緒八尺  
中程ヲ金襴ニ包左右長短  
有之此取ハ咏木ナリ何ニ如

繪圖口傳  
尻鞘

金唐草或錦草

赤泔或草ニテ長寸  
二分猪目ト足同二分

大招利用手カ

大招利用手カ  
カ各目ノ録ヲ  
表ノ取ヲ  
招ノ録ノ先ヲ以テ  
調伏スル意ナリ

大招五色ノ羅紗或錦  
長サ九分釵形ノ幅五分  
但毛先ハ五分程見ル

尻鞘ノ太刀者衛符ノ太刀虎或

熊ノ毛皮ニテ尻鞘ヲ入タル也

遠所ノ行幸ニ之時用之隨

身ノ太刀者

元録ニ  
仲復日  
仲復音

### 書院傍卷

客居  
真ノ三幅掛中等佛位  
其座ノ奥ヲ背テ坐ナリ  
前ノ香道具ホリテ淨ヲ真  
ヲ辨テ為ナリ

客居

花入

壺  
瓶  
香合  
燭臺

主居

花入

燭臺  
香合  
瓶  
壺

### 書院付床

喚鐘ヲ懸ル下  
佛前ヲ表行書院  
ノ号ヲ有御座テ  
鳴ラサシテ會  
アリハナラス

喚鐘

硯

硯

仙臺建サシ  
香燭ノ名  
今食燭ノ名  
ヲ入レ下本式

遠棚

石

燭臺

皇榻ハ三節  
香燭ハ所ヲ押  
クハニテ火  
イテ又モノ

石

中書物

食籠

袋ノ香ロヲ飾  
川ハ道見大  
可置是ハ認有  
香口故袋入  
香所望スハ  
多色共持出  
袋ヨリ出し  
香合ハ加羅  
ヲ入レナリ

食籠

仙籠

馬上蓋焼物名

鏡臺ト飾  
先ハサレ客ニ依  
天赤  
茶移  
目赤

香合

水指

鏡臺

食籠

圓筒ハ二三ノ  
ナリ上蓋同ヤウ  
片杯ニ此圖ヲ取  
座ラ定ム多ナリ  
用客ニ依テ心得  
アルヘシ

柘立

圖筒 食籠

鏡臺ト飾  
先ハサレ客ニ依  
天赤  
茶移  
目赤

文臺  
贖紙硯

中央亭三具足飾  
此款ヲ拵下云

出舟ハサキ白テ  
我左ナリ  
入舟ハ向テハサキ  
我右ナリナラズ  
二所道欄氏ニ大割中  
ワリト割テテテ  
道具ヲ出テ長クテ  
ラ半合ニ取大割トス  
其半合ヲ中割トス  
其間ニテト割トス  
主クハ道具ハ大割中  
割ナリ枝葉ノ道具ハ  
小割ニ置ナリ

舟釣

椽  
角盤

花瓶

香比文筋立  
香炉  
香筒

四幅封ハ景ノ二幅  
二景ノ書スル類  
多シクハニカケテ  
ニシキナリ又四  
本ノ西モアリ  
合ニ香炉灰ヲ押  
スハ香ヲ煮スル  
先所押名ニテ  
式ハソラタキヲ  
スルナリ

四幅封

花瓶

花陸

中央卓

三具足ハ三幅封  
二幅封ハ三具  
足石可置一夜瓶  
三ツ又ニツ此中  
固ノ如ク香炉ヲ置  
ス

上蓋香炉香合  
下香器立  
中央卓

仙蓋  
瓶蓋  
馬蓋  
食籠  
先ハサレ  
右月

香盆血傍

香炉  
合香  
前

香  
立  
香  
前  
香炉

カキ  
合香  
前

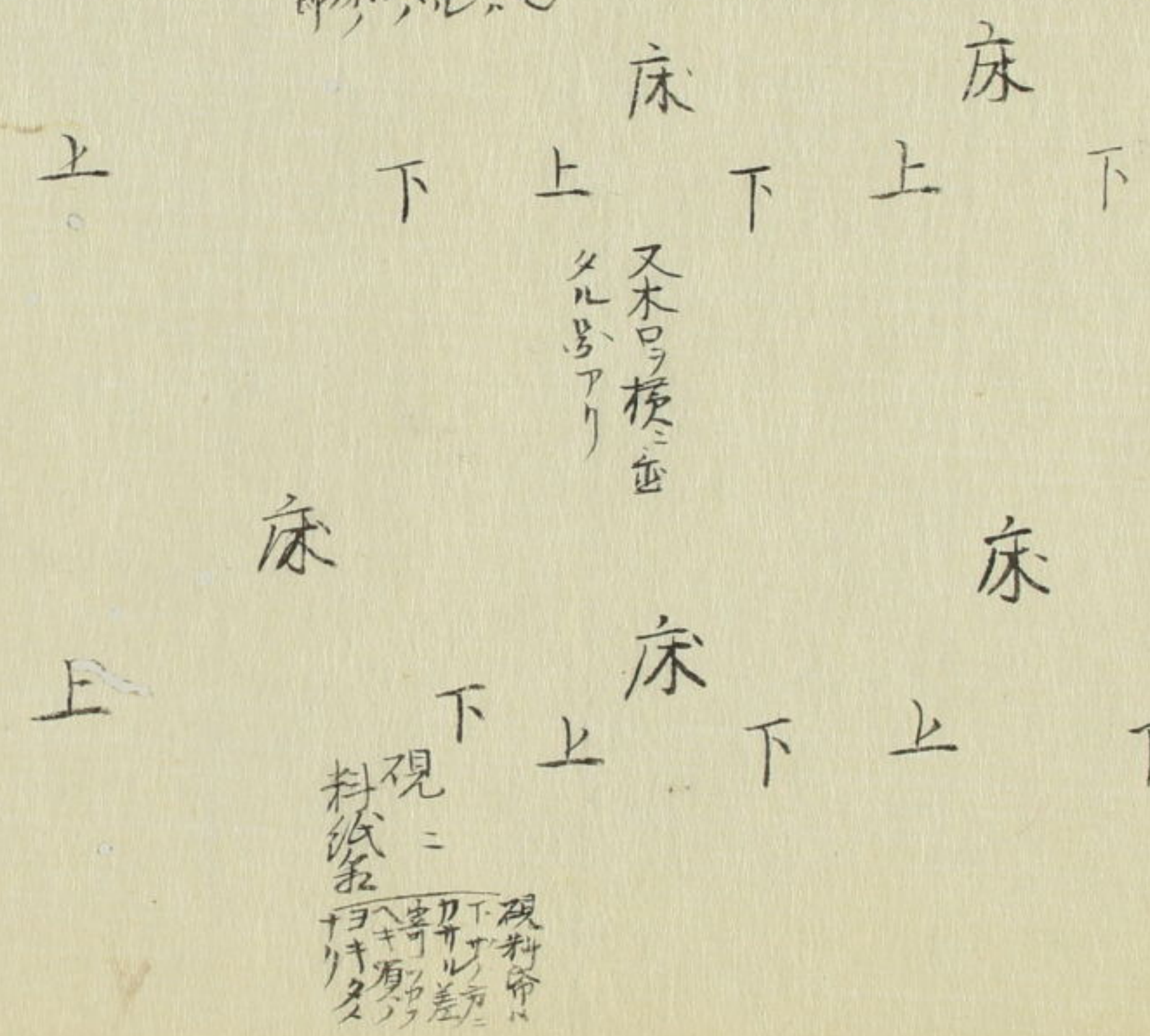


九三万ヨリ押  
四角小四方ヨリ  
右床カサリハ式々  
客心得アル  
ハシ

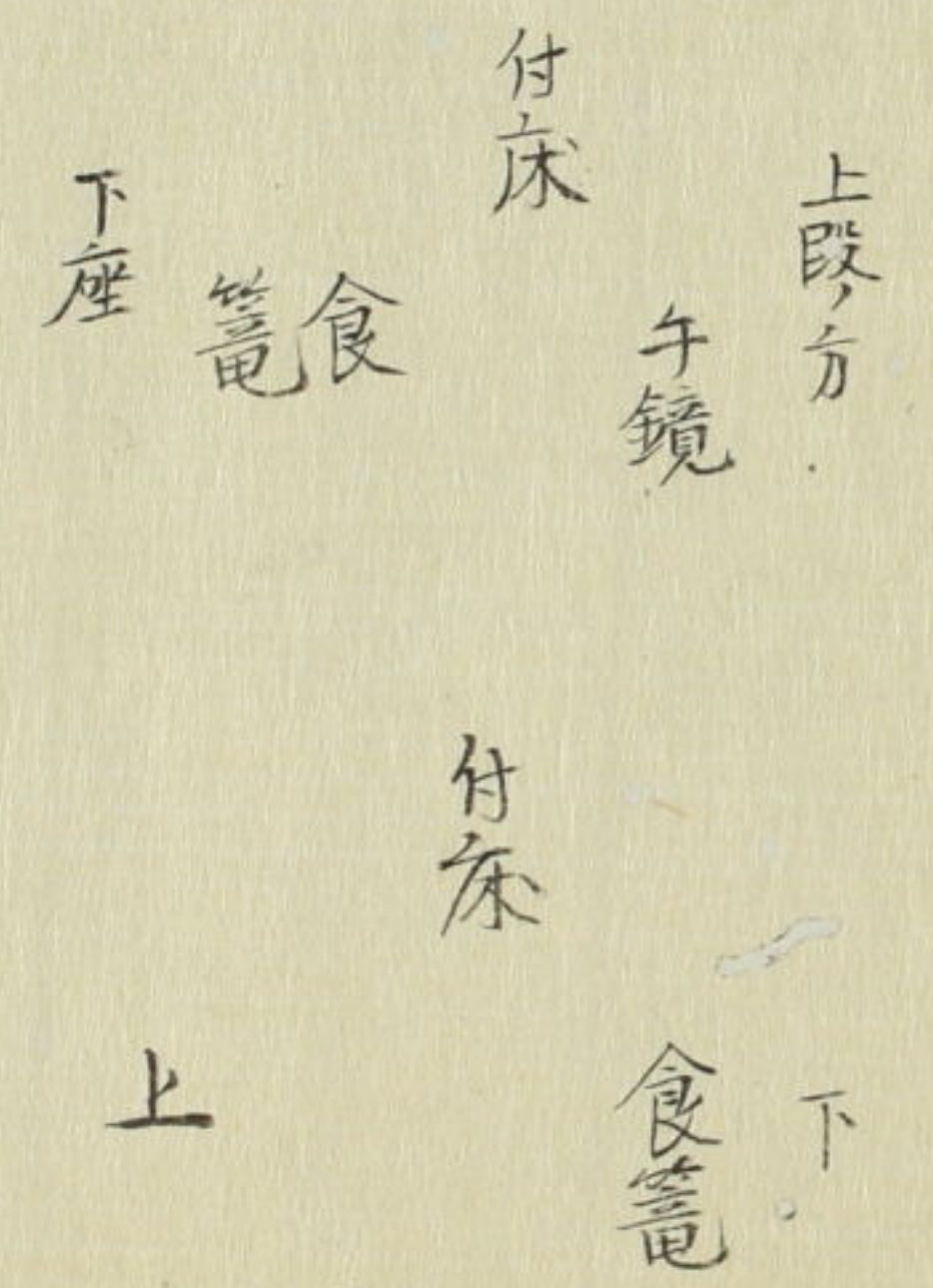
前  
夕キ  
カヲ入  
香炉灰押分  
丸ハ半  
天形調  
是分奥乃座飾

其名局持茶盤  
各横目ヲサシ  
向木口ヲ向  
カラス  
ハシキハ出キハ  
木口ヲ西面  
スルナリ

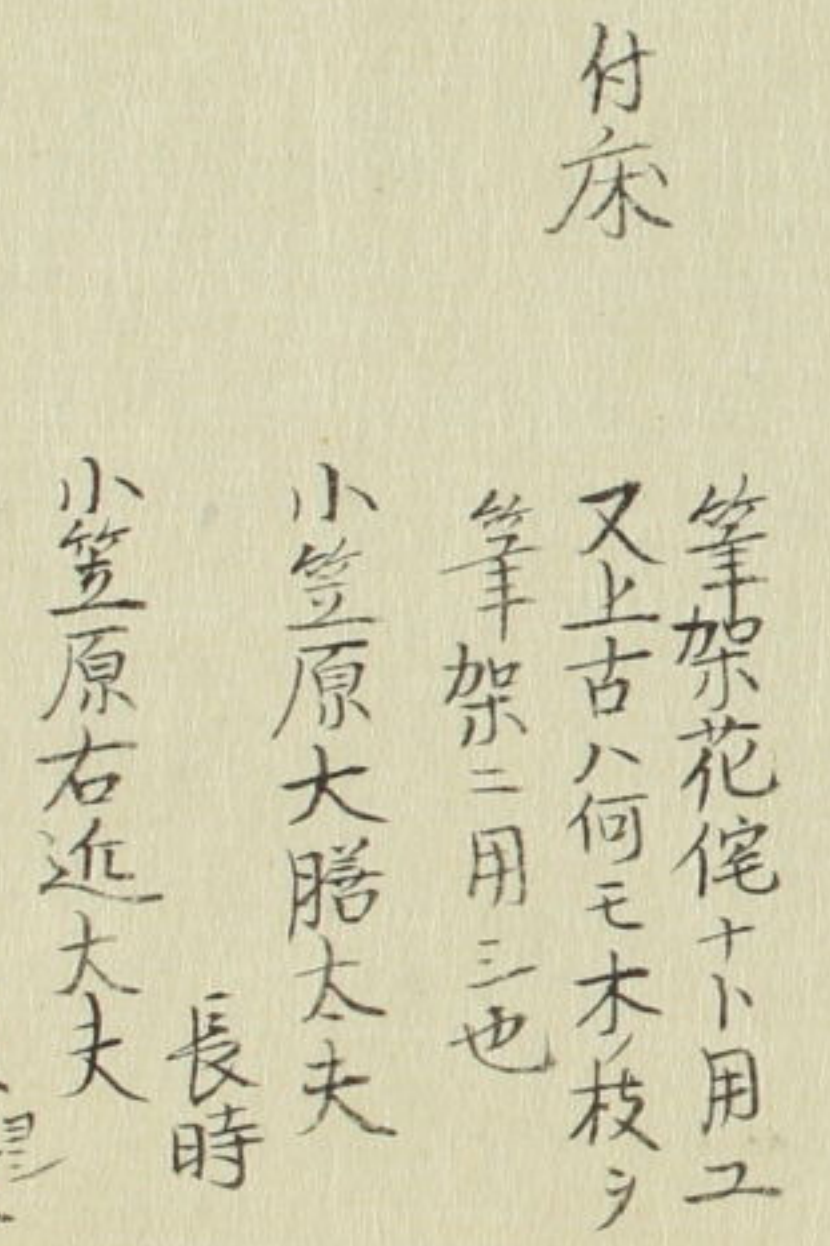
双六盤モ同  
座三千置是ハ  
横目ヲ西面ニスル  
床ニカハルハ石入  
袋ノ口ヲ床  
左ニスルヤシ飾



手鑑軸ノ物ノ類  
賞取ナリ仍テ上  
限ノ方ニ置ナリ上  
タシノ方ヲ上ト  
スルン



花ノ枝ナドワビ  
用ル式ニ有ニ  
シキナリ  
昔ハシフナリ  
ト用タルナリ



右ニ奉雖為秘事依不浅  
御執心懇記進畢妄不可  
有外見者也

水嶋卜也之成  
伊藤甚右工門  
幸氏

三十一  
荷之圖卷

荷の中道具  
神入ルモノ  
皆礼ノ時列  
ニ備ヘテ  
リク入ルモノ  
指子地共外望ハ才家故ラ付ル  
緒結板如等々異儀

借真紅打漆有  
兩ワニ倍ヘシ  
但唐儀類ノ  
實モ有ヘシ  
又十キハ古更ニ

足ニ本マニ所  
一本マニ五以上  
六本ナリ一腕  
四本ト有片ハ水  
ナリ

几帳面ニ几帳ノ  
臺ヨリ出中ニ  
細ク高ク左右ラ  
溝ニ取ラ云々

底ヨリ借ヲ十  
文字ニ取テ和豆  
ノ定(圖)エトク  
由ナリ

身高二尺

惣足一尺五分  
箱下出端三寸一  
分

足教合六本丸面

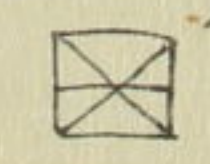
金物曰  
足取柄  
寸六分四分

足ノ本  
寸四分

几帳面取金物緒通金物有  
但一荷有

寸法其外  
前ニ同シ

ツコ三十文字ノ足  
但三本



寸法

一尺八寸四方身ノ高サ九寸五分  
足ノ高サ曰前金具曰前

一番貝桶  
指渡一尺六分

臺ノ高サ一尺六分  
惣高サ一尺一寸二分

身高サカフコウ次第  
蓋大概如左大方八角又六角丸モ

スル梨子地黒塗紋ヲ付ル

一番

指渡一尺一寸八分

惣高サ一尺一寸七分

但身高サ九寸九分

蓋高二寸

臺ノ高一寸七分

曰足高サ二寸

級真紅漆方  
物高サ一尺一寸七分  
但身高サ九寸九分  
蓋高二寸  
臺ノ高一寸七分  
曰足高サ二寸

右法紙ニ法  
不考置連格  
と彩色ニカ

幕土の屋切式ハ  
大市十文字ナリ  
用稿足のトク  
本式ハ所ニ付  
三十一

宮家行列之卷

高年大、仕表東首鈴ヲ  
付引繩、赤白ノ行交之  
大、怪ヲ拂故、畧大長  
子一對ヲ興へ入ル

足輕、對ノ羽織

幕ハ、内陽ヲ備重  
善仍テ、行列ニ定同  
柱、有布串ヤ  
箱ニ入ヘシ

着服素袍袴  
畧上下

天兒又、這子大ヲ略テ  
大張子筒守袴掛草  
包形ヲメベシ

歩士半上下  
ヲ着ス

傘持式、白下  
畧着板ヲ用

女子ノ片、鎗基盤三三ヤサ  
其土ラフ畧ス

散米、神桶ニツニ入  
持也、輪具ニ入持也  
身居近ク、コリ左右  
ニ持テ、徒士ヲ時ク

古漆表刺、今扱箱  
ヲニシ

弓ハ、張弓袋入蓋  
目ヲ音ニ入第ニ入ル  
三座所ノ弓、蓋目ク

長刀古力者持  
今ハ、平人男子ハ  
可依家女子ハ、何  
モ有

大  
足輕

幕箱日柱

燈

物願  
畧  
高年

高年

兼傘  
高年

鍮  
高年

高年

高年

高年

扱表刺  
高年

鍮  
高年

高年

高年

高年

高年

高年

扱表刺

高年

長刀

高年

高年

高年

高年

高年

大月ハ左石巻持分至  
昔人ハ可為持刀者  
今左三刀体入右  
ワキ差男女共ニ可  
持ナリ  
満宝持氏ニ奥内工  
入ヘシ

持鎧也女子ニシ  
今甲子ニ持ヤリ  
先ノ鎧ハシテ道具也

籠白丁銀烏帽子  
着畧ニ常ノコトシ

女子ハ片供女中  
男子ハ十三歳女  
等サ中先ハ各ニ

巨長モ千等今略之  
奉納ノ太刀具外先  
使者有ヘシ

供ノ騎馬令限ニ依  
多ク有烏帽子子  
素袍畧長袴等

此同勢人教ヲ改  
多クハ令限ニ可  
依人数嬰氏ニ半ヲ  
用ルニナリ

中先

馬持  
抱身

除

高率

樂

馬持  
抱身

除

高率  
中

馬殿取寄馬高率  
宗物 同

無草小素袍  
四男袴畧  
并カケ羽後

押  
押  
押

長持 雨具 押 騎馬 日 押 差 日 馬殿取 日

押 差 日 馬殿取 日

三ノ箱今一ツ可有  
供養分限ニ可依

養箱注日  
養箱注日  
養箱注日

是ハ魯兒ノ守  
役トシヘシ

養箱注日  
養箱注日  
養箱注日

已上

宝永七  
孟冬下院  
孟冬八十月  
下院下十夏

三十三  
當流香炉灰押形卷

此ハ火麩ノ餘  
葉ト云公家差  
別ナシ

但四季氏古用ハ  
角切ヲ用ユ

春 麦梅花形 麦地飯形  
秋 麦楓葉 冬 麦雪形  
右ハ公家才ニ用也武家才  
冬如左ノ如

花形ハ河ト云  
ハナシ梅サシラナ  
トモアリ

春 麦 麦  
秋 麦 麦  
冬 麦 麦

畧ノ人 四季子ノ大ニ用

麦ハ右  
麦ハ右  
麦ハ右

花ニ其外ニ  
餘葉ヲモ違用  
ルナリ

花見 但三月斗  
麦ハ草形  
又ハ草

婦くさ所い  
押さくわ  
ワカ

月見

但結斗  
菱机

又の形

上のゆき  
庚の月と  
ハキヤ

銀葉六角八亀甲

祝云用押取 門出用二

表八角八方表  
考彦ノ教ヲ表スル

菱六角

菱八角

輪宝秘十ノ神仗  
ヲ初モナク新モナク

象輪  
寶也

佛前之灰

象  
御光

佛の御光ヲ表ス

連歌

初念

灰多ハ不恒ニ  
今ニハハシ

一香炉此内之灰と今更セヨ

香會レシカハ  
キリクモ

一唐國其々々みのか松

香炉空ヲキ  
本ノ所ヲ用フ

二高足籠りて食の湯  
よして丸用也 唐の香炉  
又ハ灰の事ナリ

香は手紙

香つまは  
鼻ノニシ香  
味修く

月見

花見

祝云

後読

佛の

浄衣

珠の

今ノ襪

抱山

兒鳴食

貴人

人ヲ恨

酒盞

菱透

袴足

忍止香

人ヲ侍

女房者

男負

女房迄寄

香盆勝

喝食ハ沙弥ノ類也  
本式沙弥ハ食ノ  
如シ余リヲ食ルモノ  
ナリカツソウニ  
元信卷ヲ依テ  
山依ノ如シ

人ノ忍止香  
又ハ  
又ハ





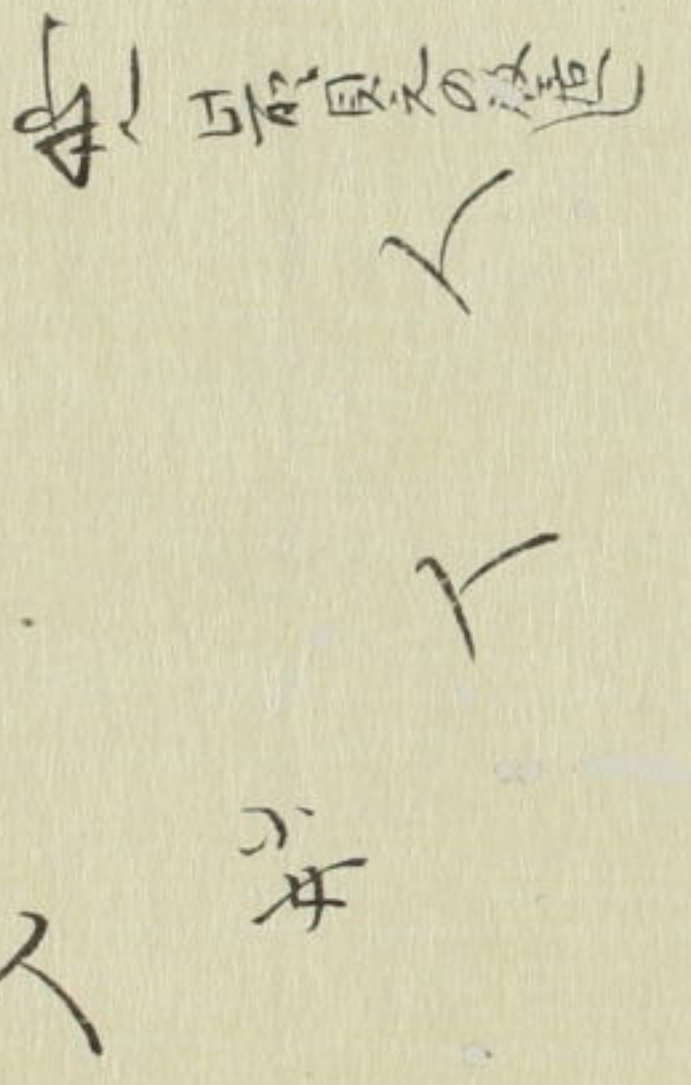


貝の丸く一貝ありす前より人を  
かく貝を産す不や人は

貝十人すふ也

三百七十と二二  
一命を産す  
唯貝三三三  
角ありはつて  
もあつて出  
貝之のほろお貝を小きまの  
一つは 貝を産す  
のふより人をやんは  
とさるるをいふおののハ  
いひくお小きこころい  
ありく一貝を地貝ともいふ  
貝ともすふと唯貝く

貝の丸く一貝ありす前より人を  
かく貝を産す不や人は



雄貝 雌貝

貝の丸く一貝ありす前より人を  
かく貝を産す不や人は

貝の丸く一貝ありす前より人を  
かく貝を産す不や人は

愛敬ノ守ハ女子出生ノ  
中息ヲ以テ命ノ法ヲ  
修シ貴ニ身ヲ離サズ  
惡難ヲ枝除ク守リ

三十五

陶之守卷

守ノ二育又腰守トテ  
衣類ノ紐ニ皆曰前  
上歳ヨリ腰守ハ深  
吟置ナリ

借老同定詩経ニ出ル  
語ナリ夫婦ニハ不限  
老ヲ凡ニソ曰ン定ミ  
ステト云ヒナリ  
能化ハ出世ノ貴僧  
増礼ノ片婦ノ襟ヲ  
胸通シ掛ルヨリテ  
一名胸ノ守ト云ヒ又  
天婦受敬ノ法ヲ修  
シ入ルニ受敬ノ守  
ト云

是ハ昏礼片ニ用ヒ  
米ハ八十八粒トシ  
ノ質ノ祝ナリ  
椿ハ二季草ト云  
月陽ヲ兼霜雪ニ  
イタク又木ニ仍テ  
祝義ニ用  
白杵ハ木地ノ俵ク

凡胸ノ守を嫁前守ト云ル  
事縁定ク陰陽配合の及  
異け丈取也敬法ク守成  
五代ト云ク借キ同定ナリ  
を凡一子孫繁昌の守護  
有也是を能化阿闍梨を  
調ク信長ノ流め婦れ云ク  
おつてのや也敬の半儀  
とも中儀ナリ

是ハ昏礼片ニ用ヒ  
米ハ八十八粒トシ  
ノ質ノ祝ナリ  
椿ハ二季草ト云  
月陽ヲ兼霜雪ニ  
イタク又木ニ仍テ  
祝義ニ用  
白杵ハ木地ノ俵ク  
陰陽の意也亦ハ人乃の

大掛ノ詰ハ遊子ニ出ダリ  
過言トテ無テアラモ  
有ヤリニ昏タルモ  
ナリ

遊代ハ八千歳ノ  
歯ヲ経シタルノ  
アリ

其命を長しく成す事  
いふ事く同出成たり  
柱を陰陽を重く討  
此の事ハ又大松ハ  
流るる也  
君臣是志下  
女中詞ハ白紙中  
中細ととほり  
又傳はし  
入る事ハ  
昔此ハ

婚姻ニ表白アヤ  
幸菱裏白便紐モ  
白シ婦ノ上リノ掛  
道ノ難ヲ救男ノ家  
行テ夫ノ見セテ  
客居ノ床ヲ七寸  
掛置ト云ハ此字  
色直後帯ノ字ハ  
錦五行相生ノ表  
火性ノ色ヲ表赤  
裏木性ノ色ヲ表青  
色相生ナリ

一日袋は寸法總立七寸四寸也  
是廿八寸長ク横の寸を  
切ハズ  
袋乃長左下ノ  
二兩也二寸寸申  
おとめ

七ハ一字ニ陰陽  
七ハ數人問ノ數  
又堅七寸五分横  
九寸五分ニスル  
モアリ

一袋乃總立寸法好  
法ハ袋ノ長ノ寸ニ  
上取五寸長ク未  
七寸横ニ二兩  
五寸ハ一寸ハ  
總角結之叶ノ文字  
屋わくくも  
叶ハ法ハ  
總角ハ  
ハ  
ハ  
ハ

總角ノ方ハ七寸  
折分叶ノ方ハ  
五寸折分タルガ  
ヨリ  
五天ハ總長  
〇四ノ如シ

一袋乃總立寸法好  
法ハ袋ノ長ノ寸ニ  
上取五寸長ク未  
七寸横ニ二兩  
五寸ハ一寸ハ  
總角結之叶ノ文字  
屋わくくも  
叶ハ法ハ  
總角ハ  
ハ  
ハ  
ハ

如是總角ニツキテ  
祝タル古哥モアリ  
御ヲ出スナリ  
如言輪ハ婦人ヲ  
救ニトノ誓願ナリ  
何用ニ

一袋乃總立寸法好  
法ハ袋ノ長ノ寸ニ  
上取五寸長ク未  
七寸横ニ二兩  
五寸ハ一寸ハ  
總角結之叶ノ文字  
屋わくくも  
叶ハ法ハ  
總角ハ  
ハ  
ハ  
ハ

フキツ方ト賤キ  
人ノ一也  
葉ヲ敷テ鴛鴦  
象リテ夫婦偕老  
同也ナリ  
椿ノ葉ヲ思ヒ葉  
果ニ名ヲナリ  
女貞ノ心ヲ毒  
海月

義宗リ二月  
上辭ハ上ナリ

定宝三  
貞系上衛

三十一

献立は書卷

當院ノシノ廣ヤカラ  
未氏肩氏云秋ヤカラ  
本氏足氏云廣ヤカラ  
人ノ左ノスレハテ葉  
心得ヘシ  
本書トハ秋立卷ニ  
スツケトハ紙ヲ不敷  
云雙ノ礼ヲ古法  
ナリ  
真ノ引渡也

自爲了敷磨斗此其公卿紙  
一筆交足布勝宗長磨斗本  
虫のこゝ紙を一又ハ中付ふも  
幼秋別磨斗の事細割也

上開ニナリ下糊ニテ  
高立ノ底ハ付シ

削シシハ花魁  
如クケツリ抗盛ニ  
スルナリ畧ニ此背白  
菜海月梅干モ之  
ニ成盛ニスルナリ

熨壇ヲ削テ盛モ  
出シ口中ニ潤ニ出  
穢ヲエテ

生薑物ニラセ不橋  
皮ハ陳皮ヲ用精  
邪氣ヲ去

盛留花形ニ置テ

ハ梅ヲ通リ盛ニス  
モリ何モ力クモス  
物ニテ用ルテ其  
何モ同前

舞ハ左方ノ舞ヲ下シ  
用ルナリハ折合ナリ  
塵土夫左舞場  
右ヒレナリ 諸要方  
ト尾ノ方ヲヤ高盛  
ノ根ニ置ニシテ形  
シタルカヨシ舞ハ  
ヲ打内左ヲ引舞  
ナリ  
三三向テカナリ

好く似たり一編ニハ定宝  
思フ上ノ舞の娘君ハかく  
付ク也をちつゝハ燈籠の  
右様乃葉を杖ニ入又ハ  
之リ之入ク持リ舞統の  
時受テ之履しむり引り付  
所也思フ一様ハ女貞本  
云女中ナリ一入舞舞  
能ク知ルる事ト云

折レをニ西斗儀心ニナ寄各  
経ニ寸分程ナ事度トク  
上とも折ノ向の云念ニ枯授ニ立  
と付ク云居ニ折々又授ニ立  
削磨斗ヲ能クも盛ニ

自爲了敷事自爲了敷ニ  
枚形ニ盛ニ立云居ナリ  
生薑橋皮ハ細小割テ自爲了敷  
ニ枚形ニ盛ニ立云居ナリ  
海月の事細割不別糊を大至  
枯授ニ立を付合ニ也

梅干此事ト云と合ニ盛云  
ニ立回ハ他似舟の型ハ年  
ニツ小角ニ居ク也  
内折ノ事程を伝平入ニ合ニ  
盛男女ニナリ大板ナ板ヲ授  
めんニ各此尾首盛ニ口傳  
塩ノ事ニナリ切合ナリ

三三向テカナリ

まは桔梗或ハ洗カヌる迄  
ゆもちを戻す

▽盛ナリ廻  
盛ナリ廻  
向菜ナリ  
粉子の事湯を合さおぼく  
きり合せて盛ち居る迄  
同か

鰹乃事 鱧とわら 長寸  
五分に寸斗は切り六七寸余  
の久煮ると合さる上に右の肉を  
さす上は揚子を水煮にい  
玉男女は裏板板と指斗  
入盛ち居る振る但折折揚  
あまのハコをさ

右内角ニ切テ  
其跡外ノ鯉ノ身ヲ  
一重エハ少シクスル  
天ハ左ニ婦ハ右板  
ヲサシ根ニワラシ置  
軒膾ト云フアリ  
細ク切ラ膾ト云フ大ク  
切ラ軒ト云フ肉ハ  
軒也膾也膾魚ハ  
軒ノ形也

〇イテウ廻リモリ  
湯巻ニ似ル故名トス  
廻リモリナリ  
者テカワカシ置  
盛片切シ巻留ノ  
方ヲ内メ廻リ盛  
ニスルナリ  
切魚

阿膠ノ木ニ間吉ノ  
異名故用

身土器ヲ中ニ置ハ  
膳ノ廣キナリ  
鏡ノセキ膳ノ箸  
先ニ置

箸者先ヲ包ハ喰料  
ノ片貴公人ハ奉ルハ  
ノ法トス  
満カハラケトモ云  
ミカキナリ

大飯ハ高盛イニ  
生飯ハ宝珠形ニワ  
又丸子形ニワモ置  
ナリ是結ノ神ト奉  
ルナリ  
〇手ノ片梳ニモル平ハ  
喰料ナリ  
海龍膠桶ト云詞ヲ  
二字各メコラケト云  
肩ヲ入テ中底ヲ  
上ハ入蓋ヲ取ハ其  
ミソコ有ヤウニスル  
服溜ヒ云

一 箸の事 あひより一尺一寸身  
古風ニ居る

松居居ニ居る一ハ箸此中ハ  
古居を居る二ハ一ハ箸先ニワ  
ハハ折り了りつむ

一 箸 ち風ハ大至と云ハ豆折  
る居出ハ 流くより也

七云この事先を祝の居ともハ  
食ハ五分入大飯ハ盛上ハ生  
飯と云ち居る居る器後境

小桶の事寸法ハ其の事書ハ  
ろくハ仲ハ肩と小角ハ居る但  
海龍揚ハ時よりカハる

ても大炊ふ入  
やめれ事一尺綱又ハ寸籠ハ  
てもあつた能くたつき細く

して 曲お糊よて付大至ハ  
居る事ハ三右同カハ地す法

本居の書ハ有る

小用ハ平高ニ有  
水引先老ハ成育  
下ニニ宛上ニ一ツ  
置テヨシ

一 角ハ事小板ナリて云ハ  
小角ハ辰水引ニテ結飛  
ト付ク

塩魚ヨシ高盛ナリ  
不焼小角ニ平高  
五付ヘシ

一 焼物ノ事小角ハ鯛ノ鱗又ハ  
鯛ノ身も子守りト下小ニ寸  
七カ字ト上ハ整飛足ニ指  
和交乃事整振ニ口傳有

鍋ノ用細クシテ合ハ  
スルメ細ク切置

一 塩川ノ事小角ハ同ハ但角整  
ニ寸時ノ事子守此ト切六  
角ハ整也古指古思言ニ  
同カ也

六角ノ角ハ振合ニ  
スルメ細ク切置

香物ハ食料ニテモ  
能盛本也六角ノ  
移合ヨシ四角ハ畧ニ

一 香物ハ事小角盛回リ整塩  
引回カ但大根ノ香物ハ  
美ホシク細ク成リ古指カ  
ニ寸ケニ寸同カ

花塩ハ花形ニ焼  
タル塩ノ花ナリ近  
作ヤウナレハ不可用

一 塩川ノ事小角ハ同ハ又焼塩  
ニ寸時ノ事子守此ト切六  
角ハ整也古指古思言ニ  
同カ也

七五三ハ二ノ膳ニ  
有五、三ハ半膳ニ  
有リ矣類ヲ不又  
版ハ味嗜ニルニ  
本式ナリ

一 集め汁事ノ事梅ニ同カ  
ニ寸ケニ寸同カ  
大根子草ニ房杯ニ寸大  
ケ取祝云々也

今ハ鼻ツスリニ  
時ノ物ヲ取合ス  
上盛下盛皆好  
盛汁ハタメカ

一 鯛ノ汁腸炙ノ事切言盛  
子持箸と指ク古思同カ言立  
カ

数テイテウ四リ  
盛何モ同セン

一 海月粉ノ事半ハ後同カ  
ニ寸ケニ寸同カ  
辛味ノ事老ノ事切言盛  
盛ニ寸ケニ寸同カ

壺煎ノコトク肉ヲ  
高ク一杯盛上ニ盛  
置高盛ニヤカス  
土器ニセル

一 蛸ノ汁乃事同カ古思ニ盛  
ハ大根牛房數二三反ハ整  
板モ盛ト盛ニ寸ケニ寸同カ

高盛杉合何モ  
同カ集汁ヨリ  
是近ニノカ

一 澄ニ也古法操ラ  
用中頃ヨリ露ヲ  
皆メ用黄筋ヲ置  
鷹ノ鱗ノキシ盛  
水昇ヲ置ニ盛  
白身ノ事切言盛  
汁ハタメスワルハ  
三ノ汁ニ但甘ニ寸  
細ラ余ノ汁ニ寸  
ニ寸ケニ寸同カ

腹中ノ味増也毛切ハ  
一重ナリ

ありきとよよとく也  
鯉の汁の事毛切やして三切登  
よよ子指乃指とす也汁ハ  
不入古思同也

中ノ足トコラハ  
上ニ内ヲ中高モ  
直ニ輪ニ指シ

貝登此事あり此とく切  
登帰又辰登是也指也

鴨ヲ用足皮トハ  
重正ノ名ナリ  
田盛ハハ首尾羽  
足ハ仰ケタルヲ云  
礼場盛

舟登此事小角又大海老と  
ゆて頭とぬき肉とをえんを  
考れとくおそ上に甲とあて  
のけてお肉ノ筋を登之出  
入ぬのりは他

甲ヲ仰ケ舟トシ頭  
ヲ艦ニ尾ヲ船ニ  
足ヲ指ニ象リ中  
内ヲ高クモテ出舟ハ  
杖据リテ頭ヲ左ニスル  
杖据リテ首ヲ  
左ニスルナリ  
左ヨリ是ニテ七五三ノ  
順ノ方ナリ

舟登此事小角又大海老と  
ゆて頭とぬき肉とをえんを  
考れとくおそ上に甲とあて  
のけてお肉ノ筋を登之出  
入ぬのりは他

是ハ辛燥ヲ盛ラヌ中ニ  
用カサハイニツ集  
肉ヲ高クモリ又大  
サハイツモ  
川海老ヲ湯煮シ赤  
盛ルナリ由リタル甲ヲ  
合肌ニツケモルナリ

舟登此事小角又大海老と  
ゆて頭とぬき肉とをえんを  
考れとくおそ上に甲とあて  
のけてお肉ノ筋を登之出  
入ぬのりは他

尾頭と肉ハカク登之ニヤ  
か〜〜け同也

イテウニカ廻盛  
ナリサハイヨリホ  
葉ハ五三ノ内ノ  
葉ノ傳ナリ

鳥登の事塩雞子成作り  
合めて登登是と指也言立  
古思同也

カヲ鉢カヲボ子ニ  
錫カラカ子

合食洋ハ公御又ハ是打ノ振  
如ハ登

引盛ハ置士器ナ  
銘々ニ出ス

引盛小字拾古思大守之何  
と公御是打ノ振ハ

昏礼ノ床前ニ  
士器鉢ナ提ヲ飾  
常ハ湯チヨリ

提子提子ハ床前ヨリ  
一押ハ吸お鮎の二ハ煮間ハ  
去思又登也又鯛鯉ありし  
よそ何ハハ子物指と指之

丸鮎ヲ用けハタ  
ス鯛ナレハ一重ニ  
ノ吸物ニスベシ

小鳥ハ丸か〜〜焼小角よ平  
言立とを松末と交登て  
登是也指也

吸物ノ白サイニ莖  
又鴨雲雀ヲ用

小鳥ハ丸か〜〜焼小角よ平  
言立とを松末と交登て  
登是也指也

イテウヨリ盛  
是ヲ向サナリ  
士器ナリ

一板の子乃事 是れと切太  
よ此不る立と付カ登也

鳴子 一 出又一面モ出ナリ  
此因カワラケテ一  
押基置干葉之  
此内ニ色ヲ用ヘシ

○キツタテ 錫ヲ用一  
本書ハ 歌立ノ巻ニ  
十二種 萱花ノリ  
花ハ 板花ノリ  
楊枝 杉二本也

濃茶 服紗アリ一  
色直也 合五式  
上ハ 色直雜者ニ  
下ハ 色直昆布  
五本ノリ 五ツナリ  
箸ヲ組ナリ  
餅ハ 煮瀧リニ  
色ヲ付シ 出雜者  
ト云 餅ニ 板ノ  
ヲ付 真中ニ 半分  
飾ノ置ト云ニ見テ  
色ハ 結ノシ 葉ヲ  
結テ 信コシテ ハナシ

結 蔵ノ 何モ 湯引  
煮 ナリ  
焼鳥 本式 一 椎子モ  
用 筆甲ハ 六角ニ  
也 廻リ 盛ナリ

合盛 〆 畧 爪盛  
カラ スミ 教子 何モ  
廻リ 盛ニ 高立有  
鏡ヲ 用ニ 丸ヲ  
クニ 引キ 四國ニ  
魚ナリ 祝義ニ 用ユ  
高立 何モ 廻リモ  
リナリ

寸法ハ 寸シ 左 簪ハ  
夫 右 板ハ 婦ナリ  
水 煮ニ メモル

五ツタテ 上流  
上流ハ 上ナリ

盃 蓋の事 是れハ  
取 育レテ かつ すす 錫板の子  
四 作 錫 鍍 海を 蝟 ち  
此 一 一 及 付 け 乾 ぎ 用 せ  
陽 次 り 及 及 及 及 及 及 及 及  
此 出 へ  
菓子ハ 三ツナリ 銀言と 玉本書  
此 一 一 五 合 蝶 舞 子 多 蝶 飛  
足 結 花 加 花 束 と 出 也  
又 授 七 種 九 種 十 二 種 盛  
茶 乃 事 基 一 一 出 也  
三ツ目  
初 献 以 此 引 渡 小 角 一 此  
昆 布 勝 葉 と 盛 之 以 傳  
二 献 新 煮 此 事 一 一 入 小 盤  
一 草 大 根 と 一 分 角 一 一 出 也  
上 下 解 一 一 一 一 出 也

と 是 也 煮 振 口 傳  
同 向 菜 多 盛 此 事 毎 早 一  
早 立 一 前 一 一  
小 岸 八 尺 と 一 寸 四 寸 一 切 出  
三 寸 此 岸 一 二 切 宛 指 毎 早  
一 盛 之 一 一 一 一 出 也  
又 小 角 一 一 一 一 出 也  
三 献 餅 の 出 物 塩 鯛 と 揚 煮  
此 一 一 一 一 一 一 出 也  
小 角 一 一 一 一 一 一 出 也  
同 向 菜 多 盛 此 事 一 一 出 也  
視 大 守 一 一 一 一 一 一 出 也  
又 一 一 一 一 一 一 出 也  
又 一 一 一 一 一 一 出 也  
同 向 菜 多 盛 此 事 一 一 出 也  
又 一 一 一 一 一 一 出 也  
又 一 一 一 一 一 一 出 也  
又 一 一 一 一 一 一 出 也

延 寶 三  
盃 多 上 流  
水 嶋 下 也  
元 成



雑八集也学六卷 三十七上  
昏タノローヲ教タル  
書ナリ

雑字集之卷上

三月ノ末ニ用柳葉  
五枚(鮎ノ皮ノ俣シ  
躬ノ上ニ楸ノ花ヲ  
置ナリ)青酢ヲ  
滴シ

鮎ノ子黄ニテ山吹  
花ニ似タリ  
近江ノ堅田新ノ  
名物ナリ

鮎のいり、鮎といふハ鮎と云り  
て細糸よりして柳葉といひ、乃  
こゝに四よなる、こゝより上は、  
折を疊ておろし、柳葉は  
葉先人の花又ハ皮なるや  
よ敷座

白ハヨコリノヨキ  
ヲ取テ名リス是ニ  
田作ヲ入テ四季  
祝義ニ出ス  
冬用ニ是ヲ請テ  
後ニ置分ノ贈ナリ

青陽ノ色故ニ三月  
ニテ用

上ニ生薑酢ヲ掛ルニ  
添着ニ出ス(物)  
魚ヲ細引テ盛タルヲ

初てり、鮎といふハ、削ち根の入り  
鮎也、世より是を、世吹鮎といひ、  
是の鮎ハ、下は、葉と、上は、皮  
大根と、云々、云々、と云也  
青鮎ハ、葉ぬき、こゝに、和らぐと  
云也、また、こゝに、肉ハ、煮鮎之  
生薑鮎ハ、是の鮎の、おろし、こゝに、

脛上云未膳ニ付ルニ  
名限

青酢ヲ和タル上ニ  
ハセタル魚ヲ斬ノ如ク  
ナラスナリ

夏賞既也青酢ニテ  
和ル焼頭ハ鮎ナリ  
和ル焼頭ハハセニ似テ  
明ノフクレタルモ、越路  
ニ多シ

ハツミヲ焼テ丸  
出所鳥符ノ詩

秋賞既也在葉體ニ  
云ハ葉ヲ斬ニ置ニ  
焼頭ハサケナトヨシ  
外ノ魚ノ頭ニ用ヤキ  
テ細ミテ置

中夏季夏用ルヲロ  
前ニ細ク切符ニミキ上  
盛ナリノフクサ盛ハ  
ツニ盛ノナリ

生鳥ノ筋ヲ用  
惣テ脛ハハハ、骨不  
背ヤウニ右長左短  
針ヲ左木ノ左ヲ少  
針ヲ右木ノ右ヲ少  
小松ニヨリテ置合

上よか、海一、生薑、代を、て、おろし  
一、卵の花、鮎といひ、ハ、ぬき、鮎の上へ  
湯、煮、たり、葉と、ちりし、鮎、文、を、し  
大根と、至ても、卵、此、花と、云也  
越川、鮎といひ、ハ、ちりし、と、云、葉と  
青、鮎、一、て、焼、か、り、と、ちりし  
上よ、盛、之

羽、長、和、と、い、ハ、鮎、子、の、根、を  
細、く、多、く、切、取、り、ちりし、て、中  
へ、置、き、こゝに、こゝに、と、け、を、し、  
鮎、の、皮、を、り、鮎、ハ、下、に、焼、か、り、と  
葉、を、お、ろ、し、と、ちりし、上、は、折、と、盛  
み、と、ちりし、鮎、を、は、ぎ、り  
鮎、は、皮、を、り、鮎、ハ、皮、と、り、  
か、と、盛、き、と、ちりし、た、て、破、と  
り、け、り

い、け、を、と、い、ハ、鮎、子、の、根、を  
と、細、く、多、く、切、取、り、ちりし、と、ちりし

昏礼六回不明  
盛三軒置

岸盛、盛形、名

よそゆらなり流着るよ  
一岸盛といふ鯉の刺新之盛形の  
名也

盛方ノ名

一ツギ盛といふ鯉の刺新之か  
ら一ツギをゆらぬ

吸物用彼ヲ付レシ  
器ニテ良職ニテス  
リナリ

一松笠といふは鯛の形を鎌形切  
筋透よりカ目を入湯成ふ松笠

吸物(體ヲモろ  
テ用ルナリ)

似し味をなすも煮る  
一ツケ刺といふ鯛の形を指すむめ  
やよよの湯成すこれ  
ろく煮るを其はけ煮  
の吸物と云ふは冬のスハの  
と云ふ

〇ワ形の不定

一お海老の吸物といふは皮と  
むね骨の粉を皮と替り板の上  
めて煮る福也一とんを打ふ  
とくしとくしと切るもま  
味吸る煮也

毛ナシ脛トハ  
鰯ナリ也是サケハ  
昔ハ砂脚ニキテ股ノ  
内能キ比サケル  
黒雲鰯ヲ用ヘシ

魚ハ何ニ用ニテ  
ノセル

一筋打といふは鰯を毛なしとこれ  
方より刀目を入りけは能き  
ろく煮るもあつるも煮るを  
すく煮る青を煮るも煮る也  
一梅焼といふは鰯を梅をふため  
湯成すも味吸るも味を付て  
煮るのを煮る付る梅の枝を  
指す煮るを付流着るに  
出れ也

魚ハ不定ニ  
本ニサスナリ即成  
煎重ノ巻ニ出タリ

冬ハ柚ヲ用中ヲ  
ホリテ魚ヲモル  
流着ニ出ル

一橋焼といふは梅焼の  
ろく煮るもあつるも煮るを  
すく煮る青を煮るも煮る也  
一梅焼といふは鰯を梅をふため  
湯成すも味吸るも味を付て  
煮るのを煮る付る梅の枝を  
指す煮るを付流着るに  
出れ也  
一流着青小出れ也  
一鴨壺焼といふは生茄子の上を枝  
あつる鴨の尻の取を付て煮る  
地味吸るも煮る  
一焼切といふは蟹の尻を煮る

流着ナリ小角  
モル

小角盛添者也  
海老舟盛ニテ

甲盛といふ大蟹の甲と信者  
て焼蟹と申す盛也

鹿クサキ鳥ヲ料  
理スル片如此ス  
クサミヲサルナリ

かくさき鳥料理よりハ山椒と  
指その汁をし洗きハ屋一  
ホのくこの塩とさるハ箸を  
紙しそきこのくこのくろろの  
ろく入連ハ塩とぬる

股ヨリ切テ四ツユフ  
小角盛ヲ云ハ鳥  
モモ正ラフニ括成  
ナラヌラ飛留ニ云

鶏子の首斗焼く者ハ此ハ  
たのこをあまじふ  
同首骨と者ハあまハ山ウも  
とあまじふ也

雁鳥ノ鳥ト名乗  
ルハ必ズ此ノ  
ヲ置ヘシ客ニテ  
ビテハ賤ニ及

鶏子の焼るハ足とくあまじ  
法也此取ハハす此日を盛ニ  
ナリ

添物ニ出ルナリ  
小角盛

鶏のやきもはあ羽と切度け  
こくは核果とを盛之と相  
改変と云也

小角盛ニ鳴秋  
雀ニテ

鴨此焼るハ好改変ハ此焼乃  
茶とさきと云也

羊脂唐丁初ニ此  
内ヲ切也

三鳥といハ鶏雛子唐と云  
け此法より茶もとも切也

右月前

又臭と云ハ朝鮮乾玉飯菓と  
云け此法より鶴此菓とも切

干瓢ヲスルヲモ  
後ノ祝ナラズ

娘盛といハ苺和布と盛と  
と云あり

干瓢トアラテ  
細メ盛ラズ

一人ひとりハ干瓢干籠と云め  
さるこの中ハ此中ハ

紅白カンテニナ  
モ盛テ有

花盛といハハらと盛と云  
盛と云

塩漬干鯛ノ類ヲ細  
四角ニ切ラズ

了りろ切ハ細切也  
そきとハ干鯛ハ

大トクチツル也

なしくぬく地と事

順三重ナリ  
昏礼合蓋ノ高  
モリハ逆ニ左  
重ナリ

一 仇平とハビト一とりのこころ  
と云

鷹ノ羽ニ似テ  
ノ名ナリ

一 鷹の羽とハ大なるわこの肉ハ  
よきお節と入焼く切と云

一 鞋ノハラノ子ノ  
一 重皮ト云ハ名

一 筋引と云ハ筋子此事  
一 鯉の守皮と云ハ筋と云

一 鷹ノ鳥料理ニ  
ニハ小カニ引サッ

一 小切と云ハて感する判筋  
ナリ

一 胸ヲサクトハ  
鷹ハクワセメ  
一番ノ子ナリ

一 新子ハ小川通と筋と云ハ  
新子ハ胸と云ハ中ハ

一 鷹ノ鳥料理ニ  
ニハ小カニ引サッ

一 多ると筋と云ハ筋子  
一 一ハ小カニ引サッ

一 鷹ノ鳥料理ニ  
ニハ小カニ引サッ

一 鷹ノ鳥料理ニ  
ニハ小カニ引サッ

一 鷹ノ鳥料理ニ  
ニハ小カニ引サッ

一 鷹ノ鳥料理ニ  
ニハ小カニ引サッ

三七中  
同中矣

此上置ハ臍煮ト  
唇ヘシ雜集ル  
ヨミテ吉名ノ種

一 新煮ト云ハ事  
津飽 津海前 大根 青菜 花糖

一 臍ノ色ヲ取五  
ニ表 本式ハ生雜魚

一 大の云種ト云ハ事  
一 色ヲツケルコト

一 五種ハ苜 鯉 鰻 干鰯  
煎海前ヲモル

一 向此葉ハ云種ノ刺ハ焼く  
一 粒ノ子ナトト云ハ事

一 焼身ハ雁 本式  
具定ノ餅ハ向菜田

一 大根乃香此物回作  
一 大根乃香此物回作

一 作リニ右ナリ大  
根ハ一切

一 大根乃香此物回作  
一 大根乃香此物回作

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 豆ニ水ヲカケ置ケ  
モ出ルヲ云云

一 豆ニ水ヲカケ置ケ  
モ出ルヲ云云

一 信州 大膳 大夫 長時  
ト云

一 信州 大膳 大夫 長時  
ト云

一 トリ居タク出スホ  
ト賞 既ナリ 是ヲ

一 トリ居タク出スホ  
ト賞 既ナリ 是ヲ

一 高盛ニスレハ 皇ノ  
物ト云ナリ

一 高盛ニスレハ 皇ノ  
物ト云ナリ

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

一 大豆ハ十五四豆  
ト云

佳花ト糸ニテ  
作ル花ニ糸花ト云

花也又鑑記の内も此もな  
子と云れと云

何魚ニモ小串ニ  
シタル名ナリ

小刺といふ小串の物といふ  
一ウリウリ焼と云ハ綱の糸れと串  
を付焼く魚足と付流青  
よ知凡也

クワカラ不動ニ似  
タルユヘノ名ナリ

一沈殿と云ハ飯臭の丁物を  
割く去急下腹を初シ沈下  
似ウリウリ名と云

左ノ巻ハ男右ノ巻  
ハ女ナリ

一訂後ハ紙付ク橋本村の乃  
事ハ又既述をも別と云第  
聖明ト云ハ其時の新氣を深  
との事

陳皮ヲ用邦  
氣ヲ去傳

一物ニセハ凡味ヲ  
直スモナリ

口中ニ潤イ出  
モノナリ

一酒ヲ禁スル出  
湯ニテノスナリ

竹串ヲ割カケテ  
サスナリ

一取指といふ小鼻を二  
あかき魚足を指出也  
煎人の時出湯茶ハ湯ゆても又  
酒より出ゆを其人ハハ  
ハ大目とすハ茶を包核の茶乳  
と云くハ其ハ茶と云  
てんといふハ茶乳と出付ニツ  
くを付指出カ  
出付湯と云  
一取茶居屋ハ紙付する時  
の茶ハ大なるハ麦の取茶ハ  
なり麦の取茶ハ其分と云  
事ハ此也

茶麦ハ酢サイハ必  
青ナ物ヲ用ニ春ハ  
風連草ハ夏ハモ  
秋ハ菜冬ハ芥  
ナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

此藥ハ虫ヲ治也  
酒ニテハ湯藥ト云  
湯トハ酒ノ一  
酒ヲ禁スル出  
湯ニテノスナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

茶麦ハ酢サイハ必  
青ナ物ヲ用ニ春ハ  
風連草ハ夏ハモ  
秋ハ菜冬ハ芥  
ナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

此藥ハ虫ヲ治也  
酒ニテハ湯藥ト云  
湯トハ酒ノ一  
酒ヲ禁スル出  
湯ニテノスナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

茶麦ハ酢サイハ必  
青ナ物ヲ用ニ春ハ  
風連草ハ夏ハモ  
秋ハ菜冬ハ芥  
ナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

此藥ハ虫ヲ治也  
酒ニテハ湯藥ト云  
湯トハ酒ノ一  
酒ヲ禁スル出  
湯ニテノスナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

茶麦ハ酢サイハ必  
青ナ物ヲ用ニ春ハ  
風連草ハ夏ハモ  
秋ハ菜冬ハ芥  
ナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

此藥ハ虫ヲ治也  
酒ニテハ湯藥ト云  
湯トハ酒ノ一  
酒ヲ禁スル出  
湯ニテノスナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

茶麦ハ酢サイハ必  
青ナ物ヲ用ニ春ハ  
風連草ハ夏ハモ  
秋ハ菜冬ハ芥  
ナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

此藥ハ虫ヲ治也  
酒ニテハ湯藥ト云  
湯トハ酒ノ一  
酒ヲ禁スル出  
湯ニテノスナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

茶麦ハ酢サイハ必  
青ナ物ヲ用ニ春ハ  
風連草ハ夏ハモ  
秋ハ菜冬ハ芥  
ナリ

一三巻ニ麵とも小初巻ハ初麵  
生飯よ之の時兼ハ作既既  
ハ魚足ハ杯と云  
一蠟茶方  
好茶大耳茶少白煎大丁子

鷹ノ足ニ透頂香  
三ノメリ俗ニ香  
郎ノ一ノ是醉  
ラサニナリ

樹心大 胡椒大  
右細末丸の金銀の衣を于て紙色  
着させむくに裁出する乳酒  
の内定むる法也

主治ノ薬ニ是ヲ  
黒心ノ前ニ飲  
養生ナリ

湯菜の方  
陳皮 天 白朮 大丁子 少胡椒 少  
右細末 紙ニ包出也

素面ヲ杏仁山椒  
ノ椒ニ食  
ハシナリ胡椒粉  
ニハシ

然心乃粉  
胡椒 杏仁 山椒  
右赤分細末 加々々 赤分

鷹ノ捉ヌル名葉  
行出ス中ハ上置驗  
及ハズ  
水札ノ尾衣節ニ  
鷹ノ中ニ有節ナ  
昔ハ節トハ名ヲ尾  
花節トナ

鳥糞上薬の  
白朮 前骨 鹿 芎藭 菱 喰 薑  
厚 赤芍 鴨 赤芍 又位 薑 藜  
玄菲 掛 鷄 菱 尾 節  
一 改 更 取 の 夏  
乾 海草 鱈 板 紫  
桃 乾 桃 乾 生 鱈 板 紫  
厚 赤芍 鹿 芎 藜 芦

是ハ甚ニツム中ノ  
ナリ  
凡ク檜葉ハヨシ

年葉ハ春ハ種夏ハ  
極秋楓冬ハ松ノ  
一葉末ヲ鋪ナリ

鴨 根 每  
右ノ外ハ臭子ヨリ松葉ノ  
一 又年葉ノ改更ト云ハ  
口内

春夏ハ足ヲ上ハ  
ハナサセル秋冬ハ  
頭ヲ上ハ足ヲ下ハ  
シテモルナリ

一 膏ニシテ 出サ付 膏ニシテ 細末  
キナリ 又 膏ニシテ 出サ付 膏ニシテ 細末  
ニシテ 出サ付 膏ニシテ 細末  
口内  
一 膏ニシテ 出サ付 膏ニシテ 細末  
狸ニ免 辛螺 又 膏ニシテ 細末  
狸ニ免 辛螺 又 膏ニシテ 細末  
狸ニ免 辛螺 又 膏ニシテ 細末

右膏合分 附ハ百目ノ肉ニ必  
大 病 治 方 也

鳥ヲ陽莫ヲ阴トス  
山鳥ハ陽鳥ハ阴  
海鳥ハ陽川鳥ハ阴  
精進物ハ陽也  
雁鳥ハ鳥類ニ粘初銜  
トハ賞ノ左ニ引ヘシ

出陳ノ者ニスル  
アリ古字ナク

神前ハ陽トニ前ニ  
付テシテ下座ニ置  
スルハ神前ハ陰  
トシテ陰トシ皆御食  
片ナリ

大中小共ニ名所  
曰前ニ鳥ト云  
片ハ大板ヲ用板ノ  
真中ヲ式ト云

一真鳥組合の決まり

丸山のもの 右は川海のお  
けんしんく山の多田の多海川の  
真多ふあすくし 登りの時ハ  
何もたよ川

射の色を、板板六七寸斗此  
ある流脈の中へ結昆布串柄  
苺子焼菓と入焼くけ青ハ  
まろし酒をさく事れ

一食よりさるまつあがり事ゆか  
のいんしんの才弘家のハ葛れ  
まよ付々しし薄

二十七下

因下之卷

一真形板す法の長又

大板 四徳 二二  
加添 式 高碑  
本行

長三尺一寸幅二尺八寸厚二寸  
是より寸五分幅一寸五分厚一  
寸五分

中板

長三尺一寸幅二尺一寸厚二寸  
是より寸五分幅一寸五分厚一  
寸五分

小板

長三尺一寸幅二尺二寸厚二寸  
是より寸五分幅一寸五分厚一  
寸五分

板を長くするに意は、志は、何  
れも、も、と、上、の、板、の、寸、分、ハ  
矢、同、と、上、の、一、尺、之、板、厚、乃  
沙、江、に、及、く、事

一山椒鉄の源青又、山椒乃  
吸わの向葉あ、れ、あ、是、之、鉄、ヲ  
二寸半、切、山椒、味、を、付、加、す、  
又、り、板、を、さ、す、事、ハ、い、ろ、く、

口餅ハ左ノ方  
ヲ餅ナリ  
上ニスルハ賞散  
ナリ

焼テニソツケル  
ウケイリトハ前  
出タル吸物ナリ

派者ナリ酒  
ヨリ前ニモ出  
ス名ナリ

昔季ノ色ヲ前  
盛過去リ有  
末来ヲ左ニ盛

鱧ノ干物ナリ  
リヤモノニ用

義ハアツモノト讀  
ナリ生國子形ト  
實ナリ何テナリ  
アリ其形品々  
有ニヤン其形  
六角半ノ形ナリ  
口班足王ヨリ起ル

ウカ巻ニ似タレ  
ユヘノ名

此魚四國ニアリ酒  
出シソキ物ニスル  
近江流多ク橋一里下  
宇治上ト云アリ鱧  
難ク名物ナリ  
ソボロヤハ細ク四角  
エリ鱧ハ細クカツラ  
ノリハ子鱧ナリ  
ソキタルヲモル  
酒ヒテナリ

ニ犀脂の巻ハ尋古思ハニ色  
板物ナリ一々あはれニ色ハ須弥の  
ニ字を去リ一々ハ四季ニ季  
ヲ好ニ正法在末ニ形ナリ  
手付ナリヨリ又ニナリ

一 人切トハ干鰯の事ニ和菜ナリ  
ニのあも車

一 魚巻トハ巻を魚形ナリ  
魚ニ魚足指ナリ物ニ魚ハ  
四十八巻の梅ナリヨリ又  
ハニナリ形ナリヨリ又ニ  
只

一 干鰯ナリヨリ又ニ  
ナリ

一 鱧ノ干物ナリヨリ又ニ  
宇治上ト云アリ鱧  
大切ナリヨリ又ニ  
一 鱧ノ干物ナリヨリ又ニ

海鼠樽ト云

生ニ塩ヲカケ酒  
アカケルナリ

イモリスリテ  
者ニルナリ

クツシスル魚ハ  
何ニテモ用ユ

角  
ワリカラニ折  
ワリ内前ナリ

鳥賊ノ白ヲ  
和ノ花ニ表ス

一 海鼠樽ハ梅ナリヨリ又ニ  
折醬ト云ハ臭名ナリヨリ又ニ  
切ク塩をアケ酒をカケル

一 鱧ノ干物ナリヨリ又ニ  
イモリスリテヨリ又ニ  
入地ノ皮を垂出スル  
のりナリヨリ又ニ

一 海苔ト入湯寒ナリヨリ又ニ  
のりナリヨリ又ニ  
と魚流青ナリヨリ又ニ  
藻類ト云ハ青葉と湯寒細  
くナリヨリ又ニ

一 鱧乃武の巻トハ省鱧ニ二三  
ナリ



口獲テ出スナリ

カキチハ北国ニアル  
川ノ子ヨリコト  
ナリヨリコトナリ  
ハハハヤニ似テ  
長キ美ナリ

何鳥ニテモ謂  
タレ味増ト有  
凡テミツク  
タレナリ

摺押ラメハ塩  
ヲカケルナリ

モミ鯉ハケツリテ  
モムナリ

の中をいふ貴族之弓の青杯  
小出之

越川汁といふわらうといふ魚と  
竹の子白朮を以て酒之夏の汁  
此貴族之をもなる事有  
しつゝくを正し事有

一 名やう魚と云ふ汁之を  
あつり細くしたる味清とか  
下しをき入出

一 鯛と云ふは鯛の肉を何れ  
もよく漬くのとく漬之を汁  
汁なり

一 青く汁の夏鳥の新と云  
ふは物珍として名の後と  
よくこきて細く入る魚汁  
とあつてさしよれ味よく  
あつて入るとは鯉と入るさう  
と云ふ魚とく胡椒粉と

と云ふ一 押と入るさうと云ふ  
汁也

舟盛ハ甲ヲ仰テ盛  
ヒテ盛ハ海老ノ頭ヲ  
外モルニ廻リモリハ  
船トナリ盛ラ云

海老蟹ハ取退故一  
味也鱈ハ作三筋ノ字  
各二一棟死鳥ハ唐  
官人罪セラレテ夫婦  
帝ヲ怨テ死鳥ナリ  
鱈羽ヲ唐トイヘリ  
葺ハ城カ落セト云エ  
ナリ

輪印ニメ皮ヲカクカ  
ヨシ杖付ハ味ヨシ  
節分ハ前ハ五穀其外  
実入りヲ奪要ニスルニ  
祝詞ニアリノミト云前分  
とテハ諸般葉物魚ノ  
スムエニ持チ名ヲ云

貴人ノ方ハ向レ

焼テ貴人ハ調進  
シタル火エニ其大  
ニテ物ヲ不調

海老と云ふは蟹と云ふは  
事ハ傳  
出門は月ハ年を細細新乾  
梅子雜子唐唐の類と云ふ  
といふ海老蟹鱈鱈鱈草の  
類不云

あつこのもと和子ニツの危丁と  
云事それ分あハ何のいそ  
皮をむくやう蒸かしてハ  
和子と云ふ皮をむくぬ  
云り何と云ふよふ一何と

和子ハ枝の方貴族  
一 御前と云ふ貴方と云ふ何  
輪の足ニツ上存と云ふ

御前ハ火と云ふ焼の魚と  
セバ火と云ふ何と云ふ焼

さく大をとりくく五丁目

○此巻本書也

世八

献立之卷

古法質ノ礼也  
今左右ノ金シヤ  
一重敷帛シヤ  
長ノシ一把本ヲ包  
今ハ坐ノ祝ニ出ス  
昔客銘ノ数ノシ  
取今ハ置ヲモ取  
○常ハ正客ノ前ニ大ト向テ置  
昏礼ニハ夫婦ノ間ニ置テ引

真ノ引ハツシ  
此孟言ノ孟事ハ  
セス尺世有アリ

水母梅干 蕨山海  
ノ和物ト云古字アリ

水母 塩  
梅干 組付孟小角三瓶  
大匙 削盤斗小童三ツ  
梅皮 塩梅皮也美チ辰ナシ

〇尺著アリ  
向ナイ何ニ  
高ニ

二番赤粥 五斗  
高立右二日又八坪ニモ  
大匙 塩  
大匙 赤粥  
大匙 生姜

嫁ノ土産ヲ持出ル  
女房ト買ナリ引  
女房往向肩結マツ  
ニスルナリ

土産ヲ引人ト引渡  
ヲ持出ル通ノ女房ト  
往結マツニスル

三番腸炙五斗  
高立坪又八坪  
大匙 塩  
大匙 腸炙

引渡本膳ハ真  
据ルニ行ニ出テ先  
据ル合孟ノ井嫁正客ノ  
賞ナリ  
次下土器ヲ一行ニ持出  
夫ノノ右ノ居  
二番打肉右居膳ノ間  
五寸程明テ出入ナキヤ  
リニ居ナリ一行  
三番膳前左ノ戸ニ居  
向ノ明ヤリ日前

四番拾七宛一宛洛  
但小三ツ  
又ハ小足打

三石ハ大童磨ヨシ  
内器又固ノ名物  
ハ不用是ハ土器ヲ据  
テ酌加出ル井床前  
ヨリ持下ル

五番之石皿  
大匙  
又ハ之ニ

三秋下ヤリ三九度本酌加  
膳手入テ通ニ人出捨土器ヲ引  
一行ナリ次ニ膳前次ニ打肉次ニ引  
ワタシヲ下ル(此井用ヨリ)婦  
色直ヲ出ス通ノ女房ヲ定ナリ  
○大飯手塩ハ七ノ外ニ六番四七  
真本膳斗尺著  
右ラ御ケ候ヲモテ乳ヨリ  
上ニ行ク一併ト色直  
前ニ婦ヲ先後ト先  
和文  
肴内蒲穂子福目  
食五斗

二三膳緑向七八  
寸明出入ナキヤリ

七番之  
菜大匙  
三石白

次ニ鉢下座ニ扱

次ニ三方ヲ持出

味ノ前ノ行片介

添テ居テ大飯ノ

其置テ取ニ三方置

是ハ喰料ヲ平ノ片

高盛ノ片蓋テテ

五中ニ盛ニ湯土器

ヲ組付テ是ヲ三

方ニ置テ居テ鉢

後ノ前ノ持来ニ片

鉢後此ノ片ハ食

入レ今添取テ

ニノ膳汁ノ間ニ

置テ

但此品アミヤニヨリ

今ハスワリカスルニ

ニテ直ニ鉢後通

テ居テ其從

次ノ引也

湯土器ハ小重ニカキ

本膳ノ縁モタセ掛

テ置テ

此片再通ノハ千金鉢

金枚子ナリ

食汁ハ椀盛菜土器

盛テテ蓋ヌ鉢ニテ

ヨシ

魚鳥精進物凡本

書ノ抄必スルニ張ス

地所ニ寄テ種々ノ間

スシテ七五三ハ膳部

ノ頂上ニ寄テ一ノ

御食庭也高盛ヲ

式トシ喰料扱盛

ヲ畧トス

蛸海月

集汁合

細汁合

羽堂小角

貝堂小角

舟堂小角

五ノ二〇行

和文

香物

教子

鼠桶

箱

水母

蟹汁

小海老

食汁

玉云

三

多盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

名盛

同ノ土器ハ皆

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

汁ナリ

中服銘(出し右ノ)  
方ニ置ナリノ金箔  
アリテ取タルニテ

蒼天目

蜘蛛子多  
足(和)  
法(和)唐(和)

夫自身ニ甚ラ  
取引キフタラシテ  
引次ニ葉子ヲ  
引ナリ

久世の事古々ニツ同(和)りり(和)  
い(和)も(和)苗代(和)ハ(和)子(和)根(和)也(和)也(和)也(和)

色直(和)テ(和)後(和)高(和)  
盛(和)ノ(和)七(和)五(和)三(和)出(和)申(和)ハ  
葉子(和)茶(和)コ(和)テ(和)ス(和)ニ(和)テ  
後(和)後(和)料(和)ノ(和)女(和)三(和)  
ヲ(和)出(和)ス(和)是(和)ヲ(和)添(和)膳  
ト(和)ニ(和)又(和)祝(和)高(和)盛(和)ノ  
膳(和)女(和)三(和)ナ(和)レ(和)ハ(和)添(和)膳  
五(和)三(和)ナ(和)リ

昆布 粟斗 三盃小角但付 足著況

又祝ノ膳(和)五(和)三(和)ノ(和)申(和)ハ  
ソ(和)ノ(和)セ(和)ン(和)ハ(和)三(和)汁(和)丸(和)葉  
タル(和)ベシ

合(和)盈(和)書(和)面(和)ノ(和)如(和)式  
三(和)献(和)ナ(和)レ(和)ハ(和)色(和)直(和)

昆布 粟斗 三盃小角但付 足著況

雜煮(和)三(和)献(和)ナ(和)リ  
合(和)石(和)豆(和)ソ(和)ウ(和)ニ(和)三(和)献  
ノ(和)片(和)ハ(和)色(和)直(和)ハ(和)餅  
吸物(和)坐(和)守(和)也

雜煮 踏(和)コ(和)ス(和)ス(和)ス(和)  
打(和)コ(和)ス(和)ス(和)  
又(和)十(和)キ(和) 打(和)コ(和)ス(和)ス(和)

色直(和)祝(和)膳(和)也

又(和)十(和)キ(和) 打(和)コ(和)ス(和)ス(和)

折高(和)立(和)レ(和)ハ(和)平  
高(和)立(和)ノ(和)一(和)レ(和)

毎(和)早(和) 打(和)コ(和)ス(和)ス(和)  
右(和)日(和) 小(和)串(和) 打(和)コ(和)ス(和)ス(和)  
五(和)中(和)土(和)忌(和)

引渡(和)真(和)中  
雜煮(和)右(和)ニ(和)据  
吸物(和)左(和)ニ(和)据

吸相

扱(和)キ(和)座(和)敷(和)ハ(和)引(和)替(和)ニ(和)  
据(和)ル(和)大(和)畧(和)ナ(和)リ

大(和)重(和) 大(和)重(和)  
俵(和)三(和)五(和) 海(和)月(和)  
鯛(和)智(和) 合(和)女(和)忌(和)

添膳(和)之(和)五(和)三(和)ナ(和)レ(和)ハ  
二(和)ノ(和)膳(和)ノ(和)菜(和)ニ(和)フ(和)減  
ス(和)ル(和)

常料理(和)五(和)三(和)

繪(和)焼(和)お(和)汁(和)  
和(和)お(和)食(和)  
香(和)焼(和)多(和)  
箸(和)並(和)尺(和)本(和)膳(和)汁(和)

蛸(和)ノ(和)華(和)ノ(和)抽(和)ノ(和)如(和)キ(和)貝(和)  
指(和)躬(和)ナ(和)ト(和)ニ(和)モ(和)ス(和)ル(和)

蛸(和)揚(和)り(和)  
酒(和)ひ(和)て(和) 貝(和)盛(和)海(和)月(和)  
魚(和)汁(和)

鮎 碎(和)り(和) 厚(和)汁(和)  
水(和)和(和)

桑葚外に出

本朝膳夫ノ初  
大山祇神ト云リ

指方

さくく  
いしほ

中呂四月  
上流上十日

定資ニ

仲長上流

世九

當流歛方定同論寸法卷

七五三五三其外  
取据用土器寸法  
ヲ教レ

輪ノ猪ノ目ハ三方  
明一ツノ方向ニシテ

三峯義ハ三巻ヲ  
四巻ニ一ツト盛  
小半細ハ猪ノ目不明  
トアリ

何モ磨キ土器也  
五斗モ次分木小  
有モナリ

鯉食膳ノ神佛一  
備レモノナリ

打肉腸煎式三  
献ナリ

間トハ五斗ト三斗  
間ノ土器ナリ

行ノ引渡ハ小角  
モナリ

高盛ニスル片ハ土器  
フクランニテノ神ヲ張  
此片磨キ木又アリ

高盛ニスル片ノ傳  
何モ右向前振盛  
片ハ三カキヲ用ル

點心ハ三義三筋  
フニツリ一カニ一筋  
等ナリ

高盛孤盛ノ傳  
右口ナリ

控アリコウキニ三  
斗ヲ用ル

三十九

九斗古器徑九寸五分是ホハ御食  
の焼物刺物ホ等ノ瀧言ハ二寸  
一分徑六寸三分之六寸形ハ此  
目とゆらる

一七斗古器徑七寸五分これハ三巻  
義又ハ割形小半細義之瀧言  
ハ二寸徑寸二分

一五斗古器徑寸五分これハ御食  
膳乃食又ハ七又之六寸之湯漬  
食内粘腸煎ホ等ノ輪の  
言ハ一寸八分徑三寸九分

一四斗古器徑寸九分これハ御食膳  
の汁七又之六寸之汁支の  
後ノ割磨斗又ハ籠のぬお  
ろト等ノ瀧言ハ一寸八分徑  
三寸九分

一三斗古器徑寸七分是ハ御食  
膳ノ言ハ七又之六寸之菜式  
三献の向せ菜と等ノ瀧言ハ  
一寸八分徑寸二分

一大斗古器徑寸七分是ハ六又之  
の向せ菜類黄三献の向せ菜  
御成の付流者ホ等ノ又二ツ  
點心二ツ點心乃向せ菜ト等  
るノ瀧言ハ一寸八分徑  
三寸

一小斗古器徑寸二分これハ後  
の向せ菜又ハ捨ち思ハ  
三ツ石也ハ月ハ三ツ石之の附

三ツ土器大三重ラ  
三ツ土器土器三士  
居輪ナリ

磨ヲ用シナリ  
割粉ハテニ心ノコ  
トニテ杏仁山柿  
胡椒ノコナリ

磨ナリ

ハ磨チ思と再也又金銀  
此初も金之輪も一寸各  
一寸八分も径二寸五分  
一多輪チ思二寸八分これハ式  
三献の輪生薑搗皮又ハ三卷  
三麵の時乃別粉七又之  
みく之乃多輪整之  
一圍ハ一寸八分これと俗ニ年  
チ思とも著者チ思とも云  
纏食脂七又之みく三式三献  
新煮三献乃若と振之

大呂十二月  
上院上ナリ

室永七  
大呂上院

山梨入道具膳卷

色直ニテハ城ヲ賣  
シテ飾ナリ  
色直後ハ夫ヲ賣  
脱スナリ

山崎女流の没心坊の事ニツ

床ノ飾物ハ分限  
ヨリ真行草ナリ

誓礼明ノ日嫁ノ道具  
改シ出シカサナリ

主殿ハ三位已上ノ御娘  
ノ御居間ヲ申ス

各面ニテハ相盃ノ間トシ  
真中ニ三幅ヲ掛

床ノ左リハ二重ノ跡也  
皆礼ノ中ハ御厨子黒相  
ヲ所ニサレナリ

御ワシ相床置片ハ  
香盆ノ數飾ハカラズ  
軸ノ物ナシトコトニ

源氏ハ若サキ巻ヲ  
カサレナリ

古今集ヲ飾ハタレ  
用シ古今ノ書ハ五  
冊ト云

磨キ床ナレハミツシ  
黒タナノ中ノ貝輪  
ヲノ置ナリ

出貝ハ男味装束

同由又直ナリナリナリ  
候おとナリナリナリ  
床ノ祝の内書物ナリ  
床のたす御厨子相  
と候之又ハ假粧の  
時よけ取ハハ年  
あもよ

巾着ハ棚ノ上ナリ  
小乃々ハ付直ナリ  
料紙又ハ沈香葉ナリ  
棚の下ハ字食録の  
料紙ナリ

袋棚ハ放書敷ト入直  
巾着ハ事ハ直ナリ  
下ハ巾着ナリ  
巾着ハ事ハ直ナリ  
巾着ハ事ハ直ナリ

床ノ上ニモ置ナリ  
置ヤリハ磐ヲ横ニ  
三セルハ榻下ニ同チ  
座敷置ハ木口ヲ  
正ニニセルモノ

硯付床ノ右置ナリ  
本式机ヲ直ニ置テ形  
ナレナリ上段ノ付ナリ  
手籠ヲ向テ右ニ  
置テモアリ

鏡臺ノ末ノ真中ニ  
黒桐ヲ飾リハ嗜ノ眉道  
具等ヲ有テ常ノ眉  
作管其外置テ  
飾ハ常ニナレ

黒桐ナレハ常ノ道  
具大ヲ置ナリ

哥硯ハ哥言用ニ  
重硯ナリ  
文臺ハ哥書ヲノセ  
料帝硯ヲモ置テ

懸掛ノ圖掛ヤリ  
大道具ノ巻ニ出ル

床真中 天兜ヲ置テ  
黒床ノ左義目ノ右ニ

天兜ノ後ニ草ノ勝  
トテ 右實 童子ノモ  
幼稚ノ以テ年ヲ置テ  
片先 距名 祝キ 掛  
ナリ

此等ノ類ヲ見合  
取テ置テナリ

連臺ハ男ノ装束上  
カケルモノナリ  
ウチニミタレハ長サ  
先ヲ貴人ハウチケル  
モノナリ

此等ノ道具見合  
飾ニ素刺袋  
今ノ掛箱ナリ  
臺ノ皮袋ハ俗ニ  
ツラナリ

几帳ハ窓方ナリ用ニ  
屏凡ハ障屏凡ト  
テヒシキナリ

下座ノ見ハタタ  
長シシ本ヲ包シ

巾次の間ノ上座ニ茶盤  
茶盤 双六盤 小座  
らハ縁座ニ 玉振  
一 奥書院上段ノ座  
とリけ年考好又ハ  
あ夕ハシテ外付座  
筆架 牒の物ニ後  
合カテアタ

一 巾假粧此間ノ座  
横袋 鏡 其玉子  
玉子ナリハ厨子  
玉子ナリハ厨子  
玉子ナリハ厨子

一 同世不此袋  
分書 香具 檜  
文臺 分此硯  
一 同座 友の  
よハ川ノと 掛  
又 屏風

一 巾襦 子  
天兜 傳子  
天兜 依 依  
一 巾長 同  
款書 玉子  
一 巾夜 寝  
と 玉子  
一 巾納 玉子  
夜 柄 帯  
の 敷 次  
一 巾涉 新  
一 巾女 子  
一 巾几 帳  
一 巾縁 座  
一 巾西 祝  
巾 口 祝

も 玉子 玉子

一 巾襦 子  
天兜 傳子  
天兜 依 依  
一 巾長 同  
款書 玉子  
一 巾夜 寝  
と 玉子  
一 巾納 玉子  
夜 柄 帯  
の 敷 次  
一 巾涉 新  
一 巾女 子  
一 巾几 帳  
一 巾縁 座  
一 巾西 祝  
巾 口 祝

夾鐘の二月  
下解り下十日

折切し出し右何も糸  
は伊  
定寶二

夾鐘下解

四十一

初産忌仕建込巻

白綾の將軍家官位  
一人御給子下平階  
五所儀の通ツル電松  
ヲ置ナリ是男ヲ  
上著ナリ  
女子ハ家ノ紋露龜松  
竹宝尺ヲ散シ置  
下著白  
四季尺ヲ入式ナリ  
一ツ身ハ丈ケ今三元  
ヨリ寸寸迄ヨシ  
初ノ長サ丈ト同ナリ  
巾巾三寸男二寸ハ廿  
五寸袖裁ナシ袖ヨリ  
取ナリエリヲトミヲ取  
ラズ  
裏ハ何モ羽ニ重又友  
裏ニモスル

初産忌仕建込巻  
白綾の將軍家官位一人御給子下平階  
五所儀の通ツル電松ヲ置ナリ是男ヲ上著ナリ  
女子ハ家ノ紋露龜松竹宝尺ヲ散シ置下著白  
四季尺ヲ入式ナリ一ツ身ハ丈ケ今三元ヨリ寸寸迄ヨシ  
初ノ長サ丈ト同ナリ巾巾三寸男二寸ハ廿五寸袖裁ナシ袖ヨリ取ナリエリヲトミヲ取ラズ  
裏ハ何モ羽ニ重又友裏ニモスル  
一背巾此三の扱の區  
め廿二寸五分又ハ  
かくれしおも友地を伴

産著ノ表張付し  
廻リヲ糸ヲ縫中ノ  
紐ハ女針男針  
縫ナリ  
白糸ニ竹節ナリ  
百日色直後ハ  
紅糸ナリ  
ニニニ男針糸先左  
ニニニ女針糸先右  
ニニニ男針糸先左  
ニニニ女針糸先右

肉よみ佛の衣名をみ敷乃  
糊をてき傷ふ書しむ  
計目の教十三国月を  
一ハ十二男針女針男女  
少羽く用座

襟付ヨリ五分下  
縫出ス

員有井ハ白綾白麦  
格子ノ綾板ノ物ニ白  
倫子ヲ文ヘシ

糸は〜ハ縫ふか一同  
宛長穿紐縫〜右行と  
綿入なりニ切しおもあは  
厚板一本もマ純也

種子ハ枕ヲノリ  
北月ノ夜ヲ置ナル前  
友地ヲ付テ後ニ家ノ  
友地ヲ置ヘシ  
又  
勝守今ハ有ニエリ付ノ  
牛獲ニ及トナリ用ル  
伎所ノ同ノ東ニ付ヘシ先  
トナリ糸ヲニテヨシ

昨傳ふ玉佛の種子を  
拂と書ふ〜志中ハ  
法神オホイサ長命ヲ獲  
と年也登

上前ノ通ニ用ル  
是引人其土積  
汗用ナリ

一同を〜背通とたの〜  
思ふよ折右右の紐と〜  
合也右也〜神のろり



白太糸一節ニテ  
トフルナリ

表ナリ裏ハ  
糸ノ苗ナリトナリ

高位ハ白綾次ハ  
練ナリ又生備  
是ハ子ヲ天ニ平備  
ナリ

〇三巾四方モヨシ

其の襟甲を巻れし  
まゝに袖のすゝはさ  
襟乃りしを納之  
こちやゝは傳  
一初産忌包白綾生備云幅  
又天あるハ二幅三尺者  
痛無松竹法着と大紋  
の書

此如ク包片産着ノ  
置ヤウ有リ  
下前上前ト小神墨  
男子ハ裾ヲエリノ方  
折袖ヲ背ノ方ハ  
ウフムニシテ下者上  
ト置ナリ  
〇ヒタ四方ニテセヒタ  
三歳ノ髪ヲキアハハ  
ウ身ハ仍テ背後ノ  
針目有  
俗ニ兄ニ歳ヨリ内ニ又  
出生スルハ兄ニ歳ハ  
此片モ四ツ身ヲ服  
タルニ

短髪也  
仲呂上流 件ハ四月  
上ハ十月

四十二

婚禮大道具表

賣人ノカケ并シ  
板付タル掛ル所  
兼テ定折身ニ本  
折ニ重ニ取タル糸  
間ヲカケル

竿ノ巻 説ニ代字と書  
ナリ

又カヤヲ付タル  
カケルナリ  
掛ル所ハ居間  
小袖カケ様  
新ニ  
新ニ

古四尺寸 竿長八尺  
幅三寸 逆編三寸  
厚八分  
夜ハ切キを付  
ナリ  
右ハ  
但法長八尺  
二寸反端  
七寸五分

九帳幕トテ高位  
ノ上ノ着座ノ下  
ニ座掛ル寸法

九帳幕

堅三横ノ木ノ  
取ル世ニ公帳  
是ヨリ出タル  
ルテウ面トハ  
彫タルモノ

梅長七尺寸 又八尺  
逆編三寸五分  
右ハ八尺寸五分  
又ハ八尺二寸六分  
横一尺二寸  
七尺五分

三所ノ折針ニ  
上ノ端ヲ掛ル  
ナリ

四十二

板一寸五分  
四角竿同分  
面とる

冬三重夏一重  
地ハ儀物相盛前ハ  
地白装束糸玉白  
一几帳 装束口傳

高位ノ道具ナリ  
寢間ニ置ク上ノ褥ニ  
上着男ノ直衣下  
帯ヲモカケル  
一簾巻  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

連其至ナキ方ハ  
衣架ヲ置ルナリ  
七寸 長四丈八寸  
三寸出ル  
下層厚  
十一寸  
五分幅  
二寸

上ノ袴ヲ袖掛  
中ノ袴ヲ帶掛  
日枯間ニ置ク  
一衣架  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

上ノ袴ヲ袖掛  
中ノ袴ヲ帶掛  
日枯間ニ置ク  
一衣架  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

置所同前我たり  
右モ又右ヨリ左  
唯羽モカケルナリ  
一帯懸  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

化粧間ニ飾ル  
折新ニモカケル  
一髪懸  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

長カモシハ下ニ紙子  
又毛種ノ類ヲシキ  
カモシノ先ヲ伏メル  
中ハ敷モノナリ  
一掛  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

本々引テ倍ニ  
其奈ヲ下ニ倍ニ  
能テ釘ニカケル  
一掛  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

箱ニ側ニ置ナリ  
費ヲ二ツ折テ  
弁置ニ入ル上着板  
ヲ置テリ  
一掛  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

一各句相ヒ云居間  
一寢間ノ座ニ置ク  
下ノ引出ノ内ニ香  
燵ケハ上迄煙ノ忌  
ナリノ外家ニテナ  
タシアリ  
一小神棚  
長三丈  
俵リ寸八分  
長三寸六分  
廣五寸

三ノ折ニテ降中  
下ニ入世サカケテ衣  
折ノ側ニ置テ  
ノモノナリ

帯箱

長貳尺八寸  
廣九寸  
高七寸

手掛籠

長五寸  
高三寸三分  
廣二寸五分  
二寸  
竿長二尺八寸

腰屏風

裏放多様無甲々々々  
高松竹と白松  
丈一白松と白松  
高四尺八寸

廣蓋

縁一方二尺二寸  
又ハ三寸  
又ハ三寸  
又ハ三寸  
又ハ三寸

燈籠の時鐘人吉屋と七持と  
入る鐘の飾りとは

四十三

御厨子黒棚三芒卷

御厨子ハ居間黒棚  
化粧間ニ飾祝言時  
一所ニ飾不分也  
三ツニハニ七床ノ左

御厨子飾

音盒 鏡再箱 初出  
沉箱 大々々 双料紙  
音盒 鏡再箱 初出  
沉箱 大々々 双料紙  
音盒 鏡再箱 初出  
沉箱 大々々 双料紙

黒柶

元儀箱 黒儀箱  
小角赤 酒令  
性向 文様

二御厨子飾

音盒 文様 鏡再箱  
水川箱 鏡再箱  
鏡再箱 鏡再箱

経ハ法華ノ經又  
鴛鴦ナリトモ又

沉箱

黒柶

御厨子ハ九色黒柶ハ  
九色懸念ル一本式  
ト古守分余ハニ  
首下見ハ  
四十三

柶原方中小ニ  
柶原方中小ニ  
柶原方中小ニ  
ヨム

南赤香目入  
昆布小黒齒并  
口祝スル  
古今集ヲ飾片ハ  
外ハ奇書不可置  
奇ノ父母ナリ  
水引ヲ置片ハ白任

小角志  
浸子  
弁云  
カク

大割ハ真中ナリ  
甲割ハ此手管短尺  
管ノ所ナリ  
小割ハ中割ヲハツ  
タル間ナリ  
廿房ノ守本尊ヲモ入  
タトニ管ハ香炉ニイテ  
タトシ入

香盒  
沈箱  
小角志  
本尊  
沈箱  
小角志  
本尊  
沈箱

黒柳飾

薄様ハ表全銀紙内銀  
赤向ハ赤黄黒ナド  
ノ紙巾ハ枚重紙ノ口  
一分初々ハミ出シタル  
モノナリ物ヲ包ナリ  
惣物ニアラズ  
乱紗ハウチ乱ヒカケ  
ノ箱ヒ云

眉儀箱  
名香  
紅箱  
沈箱  
沈箱  
沈箱

沖厨子道具

小道具大板此此  
取替ハカサレナリ  
厨子ノ道ニテ黒柳ニ  
飾ナリ黒柳ノ道  
具ヲ用フシハ飾  
ハカラス黒柳ヲ止メ  
沖厨子ナリカサレナ  
黒柳道具ヲ用フシ  
ハカサレナリ

一 香盒  
一 沈箱  
一 香盒  
一 沈箱  
一 香盒  
一 沈箱

カラス又黒柳汁  
飾片用フシノ道具  
ヲ置合ルナリ沖厨  
子居間ニカサレナリ  
脚ニ云  
香匙昔ハ煮物ヲ是  
ニテ林ノベタリ今ハ  
所押ト云  
火筋ハ火箸ナリ  
火筋團ヲ是ニ置火  
加減ヲスル今俗是ヲ  
香箸ト云候ナリ  
香箸ハ杉ナリ

一 拂箱  
一 檜箱  
一 礼箱  
一 民布箱  
一 小角志  
一 眉儀箱  
一 渡令  
一 房箱  
一 元徳箱  
一 黒齒箱  
一 仇切箱  
一 一カク

四四

懐孕着帯次第表

腹ニ帯ヲスルヲ  
着帯氏願帯ヒ  
三訓ニ着帯ト云カ  
コトシ  
夫婦共織ニヨリテ  
諸社ニ奉ヒヘカラス  
男ハ九ヶ月迄ハ奉  
テヨシ  
暮月ハ父方ヨリ  
上ハ母方ヨリ親式  
終テ定公後世以テ  
解テ定テ定テ  
何モも系々ト云

旧郷ノ父ヲ母ヲ  
母ヲ母乳母ト云  
他ノ老女ト云  
詩ノ例モアリ  
右祝ノ式備テ普音  
後ノ役ナト 申付  
祝ノ節ナトモ云  
シヤリ

平指ノ練ヌラ生僧上  
云白キモ生絹モ使フ  
礼ナリ  
八尺ニツクハ切ト云  
忌女詞ヲヤリツクト云  
細石ハ雨落ノ中石  
子安大豆ト云秘ナリ  
尹人丸生カツト  
云秘ナリ

ハラ密ト云サト通音  
多経巻カハ大般若  
六百巻ノ分三ノ儀ト  
三座ノ御解ト通音

三節氏内ノ使ハシ  
糸ヲ百ヌハ雙又  
第ヲ見シ祝ナリ  
ハ見ヲ百ヌト云  
祝ト

右ノ秘ノ父ヲ調テ  
其帯ヲハシテ婦  
人必難産ナリ

糸ノ端ハ五寸モ又三  
寸モツクナリ  
又一寸五分モ是ハ  
七五三ノ合教エナリ

折形ヨリ二筋氏出シ  
夫右神ヨリ入後ニ埋  
帯ヲ仕初ラ左ノ  
神ヨリ出シ右方ノ  
石神ノ渡ス

婦ウケ取後ニ四  
斤信ニスル此片大  
微音ニ連哥ヲ祝言ス  
此帯ハ其終解ヲ略  
余ノ帯ヲ用ニ  
赤白ノ丸子形解ナ  
穎子ノ床ニ飾此後  
夫婦ノ据祝有

肝取草ヲ白ク惣  
地ヲ清音ハニ紋研ハ在  
龜ノ形ヲ中ニ  
家ノ紋ヲ深ニ定テ  
三子ヲ深ニ定  
故ヲモ散ス  
裏ハ白ハ身ハ白  
百七目ニモ著此後ハ  
色ノ物ヲ着ル節  
ニヨリ綿ヲ入多  
裕也

一ヶ月のまゝは局より置入  
返り着る用きすは  
多しめれ此をその御と  
時宜ふより果報伊員女子  
除無昌のそ女とこの調也  
白生絹と八寸は  
柄青とそをへ又秘密の  
伊ふ平八八粒される  
大更一ア二つより四のた  
右ふ<sup>①</sup>其<sup>②</sup>書付糊と合を  
たの之及と紙の色と此上ふ  
摩何<sup>③</sup>鹽若女子流了法  
タ<sup>④</sup>経<sup>⑤</sup>其<sup>⑥</sup>解<sup>⑦</sup>さん<sup>⑧</sup>の<sup>⑨</sup>御<sup>⑩</sup>解<sup>⑪</sup>  
さげあそくお付帯の出入と  
袋のそく七五三とち多此帯と  
とめす本末より小縫好よす  
扱初念取はけり吉海法  
法を派入たのそくよけ者

流<sup>①</sup>之<sup>②</sup>下<sup>③</sup>これ<sup>④</sup>格<sup>⑤</sup>と<sup>⑥</sup>秘<sup>⑦</sup>傳<sup>⑧</sup>の<sup>⑨</sup>法<sup>⑩</sup>之<sup>⑪</sup>  
こ<sup>⑫</sup>ろ<sup>⑬</sup>ろ<sup>⑭</sup>ろ<sup>⑮</sup>の<sup>⑯</sup>人<sup>⑰</sup>を<sup>⑱</sup>よ<sup>⑲</sup>り<sup>⑳</sup>あ<sup>㉑</sup>れ  
た<sup>㉒</sup>る<sup>㉓</sup>を<sup>㉔</sup>奠<sup>㉕</sup>傳<sup>㉖</sup>云<sup>㉗</sup>  
帯<sup>㉘</sup>正<sup>㉙</sup>角<sup>㉚</sup>の<sup>㉛</sup>事<sup>㉜</sup>婦<sup>㉝</sup>ハ<sup>㉞</sup>女<sup>㉟</sup>の<sup>㊱</sup>  
方<sup>㊲</sup>に<sup>㊳</sup>し<sup>㊴</sup>て<sup>㊵</sup>夫<sup>㊶</sup>ハ<sup>㊷</sup>軍<sup>㊸</sup>神<sup>㊹</sup>の<sup>㊺</sup>音<sup>㊻</sup>  
小<sup>㊼</sup>向<sup>㊽</sup>ひ<sup>㊾</sup>帯<sup>㊿</sup>と<sup>㋀</sup>け<sup>㋁</sup>た<sup>㋂</sup>の<sup>㋃</sup>神<sup>㋄</sup>不<sup>㋅</sup>  
入<sup>㋆</sup>  
く<sup>㋇</sup>も<sup>㋈</sup>や<sup>㋉</sup>も<sup>㋊</sup>く<sup>㋋</sup>難<sup>㋌</sup>ふ<sup>㋍</sup>さ<sup>㋎</sup>る<sup>㋏</sup>指<sup>㋐</sup>れ  
と<sup>㋑</sup>こ<sup>㋒</sup>ろ<sup>㋓</sup>ろ<sup>㋔</sup>ろ<sup>㋕</sup>の<sup>㋖</sup>右<sup>㋗</sup>の<sup>㋘</sup>神<sup>㋙</sup>入<sup>㋚</sup>じ  
法<sup>㋛</sup>を<sup>㋜</sup>む<sup>㋝</sup>じ<sup>㋞</sup>し<sup>㋟</sup>ひ<sup>㋠</sup>祝<sup>㋡</sup>儀<sup>㋢</sup>あり<sup>㋣</sup>  
返<sup>㋤</sup>生<sup>㋥</sup>の<sup>㋦</sup>後<sup>㋧</sup>右<sup>㋨</sup>の<sup>㋩</sup>帯<sup>㋪</sup>と<sup>㋫</sup>練<sup>㋬</sup>と<sup>㋭</sup>あ<sup>㋮</sup>ら<sup>㋯</sup>す  
ふ<sup>㋰</sup>ろ<sup>㋱</sup>ろ<sup>㋲</sup>ろ<sup>㋳</sup>と<sup>㋴</sup>つ<sup>㋵</sup>ち<sup>㋶</sup>彼<sup>㋷</sup>不<sup>㋸</sup>病<sup>㋹</sup>龜  
松<sup>㋺</sup>竹<sup>㋻</sup>と<sup>㋼</sup>は<sup>㋽</sup>名<sup>㋾</sup>清<sup>㋿</sup>音<sup>㊀</sup>不<sup>㊁</sup>深<sup>㊂</sup>ろ<sup>㊃</sup>ら<sup>㊄</sup>は  
た<sup>㊅</sup>の<sup>㊆</sup>緒<sup>㊇</sup>と<sup>㊈</sup>付<sup>㊉</sup>は<sup>㊊</sup>し<sup>㊋</sup>て<sup>㊌</sup>あ<sup>㊍</sup>ら<sup>㊎</sup>す  
く<sup>㊏</sup>あ<sup>㊐</sup>ら<sup>㊑</sup>す<sup>㊒</sup>て<sup>㊓</sup>は<sup>㊔</sup>な<sup>㊕</sup>り<sup>㊖</sup>か<sup>㊗</sup>ん<sup>㊘</sup>と<sup>㊙</sup>も  
小<sup>㊚</sup>神<sup>㊛</sup>と<sup>㊜</sup>し<sup>㊝</sup>て<sup>㊞</sup>ま<sup>㊟</sup>す<sup>㊠</sup>し<sup>㊡</sup>仕<sup>㊢</sup>神<sup>㊣</sup>と<sup>㊤</sup>の<sup>㊦</sup>之<sup>㊧</sup>  
世<sup>㊨</sup>不<sup>㊩</sup>か<sup>㊪</sup>祭<sup>㊫</sup>れ<sup>㊬</sup>ま<sup>㊭</sup>ぬ<sup>㊮</sup>い<sup>㊯</sup>ふ<sup>㊰</sup>是<sup>㊱</sup>也

如祝<sup>一</sup>其<sup>子</sup>也  
 祭言<sup>ヲ</sup>祝<sup>一</sup>也  
 所<sup>取</sup>草<sup>和</sup>名<sup>垣</sup>  
 通<sup>ト</sup>云  
 任<sup>三</sup>身<sup>也</sup>長<sup>テ</sup>  
 二尺<sup>神</sup>一尺<sup>ナリ</sup>  
 一<sup>際</sup>と<sup>記</sup>組<sup>屋</sup>の<sup>ま</sup>も<sup>持</sup>者  
 とも<sup>時</sup>乃<sup>祝</sup>儀<sup>と</sup>は<sup>し</sup>る  
 一<sup>口</sup>傳

四十五

入部行列

諸侯大夫固在所  
 歸城<sup>ヲ</sup>入部<sup>ト</sup>云

行列分限<sup>ニ</sup>仍<sup>テ</sup>此  
 例<sup>ヲ</sup>考<sup>ヘ</sup>キ<sup>ヘシ</sup>

銃炮<sup>ノ</sup>袋<sup>ニ</sup>一<sup>挺</sup>ヲ  
 足<sup>輕</sup>左<sup>肩</sup>ニ<sup>カ</sup>ツ<sup>ク</sup>  
 玉<sup>ク</sup>ス<sup>リ</sup>箱<sup>其</sup>踏<sup>ハ</sup>  
 頭<sup>其</sup>踏<sup>ニ</sup>先<sup>手</sup>物  
 召<sup>連</sup>ル

其<sup>至</sup>弓<sup>也</sup>二<sup>張</sup>三<sup>中</sup>鞞<sup>又</sup>  
 矢<sup>箭</sup>ナ<sup>リ</sup>又<sup>一</sup>張<sup>建</sup>矢  
 箭<sup>ナ</sup>リ<sup>何</sup>ニ<sup>足</sup>輕<sup>左</sup>  
 肩<sup>ニ</sup>カ<sup>ツ</sup>ク<sup>物</sup>頭<sup>同</sup>ナ<sup>リ</sup>  
 又<sup>弓</sup>斗<sup>一</sup>張<sup>ヲ</sup>持<sup>モ</sup>ア<sup>リ</sup>  
 書<sup>面</sup>此<sup>分</sup>ナ<sup>リ</sup>

矢<sup>箱</sup>ハ<sup>一</sup>荷<sup>ニ</sup>テ<sup>征</sup>美<sup>ヲ</sup>  
 五<sup>十</sup>本<sup>モ</sup>片<sup>々</sup>入<sup>ヤ</sup>シ<sup>ニ</sup>  
 ズ<sup>ル</sup>ナ<sup>リ</sup>是<sup>モ</sup>ア<sup>ト</sup>ハ<sup>カ</sup>  
 ヲ<sup>カ</sup>セ<sup>ル</sup>

長<sup>柄</sup>モ<sup>一</sup>本<sup>ヲ</sup>長<sup>柄</sup>組<sup>カ</sup>ツ<sup>ク</sup>  
 家<sup>ノ</sup>鐘<sup>仲</sup>ヲ<sup>付</sup>ル<sup>長</sup>柄<sup>奉</sup>行<sup>行</sup>  
 乘<sup>馬</sup>日<sup>ナ</sup>

旗<sup>指</sup>ハ<sup>カ</sup>量<sup>有</sup>者<sup>也</sup>  
 旗<sup>ノ</sup>不<sup>指</sup>竿<sup>ハ</sup>袋<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>  
 細<sup>ハ</sup>カ<sup>ツ</sup>ク<sup>旗</sup>ノ<sup>袋</sup>ニ<sup>入</sup>ル<sup>箱</sup>  
 行<sup>乘</sup>馬<sup>日</sup>ナ<sup>リ</sup>

騎<sup>馬</sup>ハ<sup>馬</sup>廻<sup>リ</sup>侍<sup>シ</sup>其<sup>其</sup>  
 廿<sup>五</sup>ノ<sup>百</sup>六<sup>十</sup>五<sup>ノ</sup>備<sup>ヲ</sup>組  
 初<sup>五</sup>ニ<sup>廿</sup>五<sup>人</sup>ヲ<sup>一</sup>隊<sup>ト</sup>シ  
 仍<sup>テ</sup>定<sup>メ</sup>備<sup>時</sup>宣<sup>ニ</sup>テ  
 歳<sup>ス</sup>ヘ<sup>シ</sup>

物頭 ○銃炮<sup>馬</sup> ○銃炮<sup>馬</sup> ○馬<sup>矢</sup>

物頭 ○馬<sup>矢</sup> ○長柄<sup>物頭</sup> ○長柄<sup>物頭</sup> ○德指<sup>旗</sup> ○德指<sup>旗</sup> ○德指<sup>旗</sup> ○德指<sup>旗</sup>

貝ノ役人細ニ入右手持  
太鼓ハ驚ニ入履也連在  
ナリ  
家免 重馬供騎馬

大鼓

○家免  
貝

曲祿兼カケナリ俗ニ  
ソラ馬ナト云電押  
竹守ツ付ル

曾建ハ中ウハ不飾  
鑑今貝三種ニ入カク  
長持則着習鑑ヲ入ル

持約玉目ハ望以テ  
依ニ入カク  
草言ニエソシス也

持弓セキ弦  
塗ヨリ也

琴氷カクク 矢五十  
本入又増減有百筋  
ニ入

扶箱ニ對ニ持ク  
金一何ニ袋入

○其至リニ張建也

教鎗鳥毛ハダテ  
道具ナリ

教鎗 菅ノカシ  
扶弓

持弓  
子弓

持弓  
單弓

持弓

持弓

琴氷

琴氷

養弓

養弓

鎗

鎗

洗扶弓

洗扶弓

騎馬 曲祿 曾建 鑑長持

扶箱 養弓 臺笠

大鳥毛

カサツノリ  
カッノリ

主人騎馬或駕馬也  
脇小性組歩手供

床机草取り取塗笠  
或杖何モ手廻リ

音聲	日	口	筒	持	鏡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
音聲	日	口	筒	持	鏡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

同勢ハ又キ者等也  
侍已上具豆櫃有  
兼掛ホ此所ナリ

一タイ分限ニヨリ  
増減アルヘシ

小荷駄ハ兩具其外  
道中ノ用具ヲ備

○小荷駄奉行物頭也

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

音聲 日 口 筒 持 鏡  
音聲 日 口 筒 長 日 口 筒 馬 梁 分 出  
音聲 日 口 筒 持 鏡

○ 牽馬  
○ 三之程  
○ 駿馬  
○ 同携  
○ 騾馬  
○ 入 小荷駄奉行  
○ 女



押家老有へし騎馬  
或篤合限仍行列  
ス(シ)

小巻

季冬ハ十二月  
中浣ハ中十日

永祿云

季冬中浣

四十六

ワタコシ  
移徒行列之巻

徒移スト讀テ主人  
及家子郎等モ  
古屋ヲ新宅ハウツ  
ルノ通稱ナリ

水ハ火防ナリ新キ  
桶一荷ハカウク桶  
岩ニ水電ヲ紺青  
ヲ益ナリ

火ハ古屋ノ火テ先祖  
ヨリ燒来ル火ヲ消サ  
カ祝ナリ火入ヲ箱  
入画ニ松竹鶴ナリ

廿五ニ屏ヘシ  
水火ハ書院ノ内ハ入  
置ヘシ  
野火カハ大カ刀長巻ノ  
カケルナリ

鉄炮ハ袋ニ入シカワク  
ヲモ一張立ニ張ニ臺  
ヲ矢巻又ウツホナリ  
負ハ石更  
持ヤリ印ヲハ長槍古

騎馬物類

ヒキ馬追個アリ  
紅赤ハ悪シ黒又  
標ノ類ヨシ

何モ雜具備ノ  
家主ノ心ニ任行列  
スヘシ

甜刺竿ヲ持ナリ  
大幸ホノリ鷹ニ  
屬タルモノナリ

兄鷹ハ 大鷹ノ雄  
弟鷹ハ 白雌ナリ

早云

大穴口持筒持子持槍  
騎馬 新置 解刺 大幸 兄鷹 弟鷹 旗袋 空位幕袋

曹建=曹不飾

(再拜ハ緒ヲ巻建テ  
右手ニ持)

圍ハ袋ニ入堅ニ右手ニ  
持ス

科心手廻リ

靴ハ淺履ニ甚シハ  
柳管ニ手廻リ

辰葉ニ軍沓ナリ

貝ハ個ニ入右ニ持  
太鼓ハ篋ニ入肩

鞭ハ袋ニ入塗鞭也  
一具繫ラ付シモ真  
草拵方ニアリ

カサ袋ニ入

直字カサ同ク

紐モ黒キカ吉

表刺袋古法  
カツクモノナリ  
今ノ持管ハ細川  
三斎侯ノ工夫

数籠ノ内リ持籠  
家々ノ持籠有ス  
長カモ目セシ  
持太刀ハ左右巻ノ  
太刀ナリ袋ニ毛不  
入ニ持双ヲ手前  
ニテ左肩ニカケ  
ルナリ

士ハ馬廻リ也

曹建 曹不飾

鑿唐槌

圖

大鼓

再拜 再拜

公置袋

漢金舞

馬工笠

披袋

大鳥毛

鎗

長口持太刀

歩行

歩行

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

披袋 又披行 古法表刺

馬脚先徒多少  
家々ノ格ニ随ヘシ

近名

○ 士 ○

持槍又数槍ノ一  
格ニ可准ナリ

○

主馬

○ 士 ○

七千馬ノ一ニ匹モ  
家々ノ格ニ随ヘシ

鑓

宗物

寄馬

押

騎馬

又者

跡家

押

又者

騎馬物頭  
又者ノ一鎧挾箱等  
一所但供鎧多少家々  
ニ随

師一人又二人三人  
ノ家々ニ随頭名  
者勤ル  
行列ノ外家先  
跡ヲ行列ス

四十七

伊弉諾伊弉册之卷

伊弉諾伊弉册  
ニ神ノ備奉ナリ  
是ヲ結ノ神ト号ラス

上流

如是飾ヲ真トシ

中道葉置鳥  
置雞瓶子一双ノ  
行ト云

養老  
養老  
養老

伊弉  
伊弉

鏡飾一重瓶子  
一双ヲ草ト云

經食

又龜甲鏡餅  
一重中ニ松ヲ云  
二重ノ如スルモ有  
餅蓬菜ト云

御食膳ノ生飯宝珠  
形ニ又玉子形ニヲ  
置トモ云

御食膳ノ生飯宝珠  
形ニ又玉子形ニヲ  
置トモ云

男二重ノ方ニ  
着生ス

手掛

養老

二重

通雞

置鳥

籠子モ公卿ニモル

女籠子

川籠

男籠子

花子

籠子

此膳結ノ神ニ備奉ナリ  
上ノ席ニ割合ニテ  
モルナリ

一 郷食膳乃食也やうの事一上乃

彦乃寸下守乃寸守ニ分形

盛乃寸生飯と貞除の寸と花

重也寸甲立と寸の寸

よ付々也糸くは行

○汁ハ開ノ土器ナリ  
毛切ハ舞ヒニ切リ  
ト是實ナリ

汗乃事舞と毛切小して恰合

能登ヤリ

三斗ナリ新造  
葉ノ苔ヲナメテ  
目出度矣ナリ

一 右の寸先ハ籠ニ腹と合頭と良

くくくくくくくくくくくく

三斗ナリ結  
合ニテモル上ノ  
何モ私サ合ナリ

一 片小海月寸登右何茂去思下

尺ノ箸ト云相吉ノ木  
トスルテノ木ノ  
夫婿相吉ノヒニキ  
取ナリ

一 箸ナリ勝軍人去を尺二寸

地乃熱ヤリ

一 耳並忍小のせ

一 三重の夏帳三枚厚二寸下の

帳は打浦の形に切合縁此

二枚目の帳は四方一寸宛ちの

さくし二枚目は二枚目分各

一寸宛ちの切也の分

この帳は宣紙に三枚乃松を三

るか下乃帳也と宛ち

繩乃付垂取扱くは行

一 公卿の尺寸角寸三寸分右此

帳乃尺寸小重上の帳乃松を

立令限の表也と西松の寸

中栗枳柑子又令上令輪子

向向此寸は尺印ナ三枚糸

の寸ハ籠ニッ腹乃合紙を包

尾頭の尺印ヤリ也色也

一 取申を尺月也鉄直入端

上二寸の帳の小尺ハ寸也

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

三枚ノ松ハ糸花ヲ用

婚ルニシテ餅ノミヤリ  
三子ニサス  
ニ枚目ヲカヤ行レモ  
皮ヲトルナリ  
上ノ餅ノ洋ニ重大豆  
昔大豆ヲ照ル此甘ル

乃く事々を命とてし言飛  
ラるがくあつ下の解ぬいぬ  
くくくを波ぬくみりも半上  
扱き方らぬニ招月の勝とふ  
は也を限ぬくこがき糊に  
て厚ふけりあつ亦も白の  
大をり糊してけり事傳

伊勢海老 甲ヲ外ニ  
スル  
紅糸十二巾長クシテ  
ムスフナリ  
三方ニ腰ニ松竹ナ  
トウエカク

公卿の只角のさるる内を  
大海危を言ふなりと云行  
申ゆて二招月の勝角も扱  
取ら甲之のぬかひ徳紅の  
糸中へ海をぬけぬまとい  
まぬめてぬかぬぬいりり  
下の其さかハナセ成はぬぬえ

下甘室ハ雲足ニ高キ  
付ル米ヲシケル深 故  
カヨシ  
下地巻草ヲ紙ニ張  
地ヲ明盛モノヲサス  
ナリ  
兼甲其基ニモ下基至  
日前  
上ニ竹ヲ指ナリ

の扱き海をぬけぬまとい  
るサも天子上守一分下流  
八寸右の六分と云ふや下拾  
ふを扱金限の流るる面也

桶自ヲ明ルナリ

一 乃くまの女主人の行合や  
表白くくみりぬぬいぬぬ  
ラを打や口傳

雉子雄ニツ鯉ニツ也  
山川ニテ阴阳ヲ取  
ルナリ  
下基ノ上ニ米細  
物ヲ四五真鳥ヲ置  
魚鳥ニ作リモノ彩色  
ナリ

一 玉を垂ぬの及見のゆふ  
下扱板り志々々突きのぬ  
又ゆりやぬぬぬ一糸  
口傳

孟春ハ二月  
下流ハ下十日

庭室口  
孟春下流

早ハ  
禮行列表

〇丸ハ合印  
昔金箱カラケ 銭トナ  
昔サシニシテ百疋百貫  
ノ一ニ是ヲ棒指ニ先  
モタセル

家危  
物類  
知ぬ  
中ハ此  
劣行

是後  
中同  
是後  
中同  
又中同

昔衣折連基ヲ  
和甲指ニ包カラケ  
付ニシテ先  
モタセルナリ  
清厨子黒桐モ先  
持ナリ  
昔布モ日前

心ナ

○前唐櫃モ日前  
右内一色モ行列ニ  
スル一殊勝ナリ  
腰付ハ三四町モ先ノ  
及方ヨリ出テ詠ス  
舞方ヨリ一様ノ方ハ  
行テ二所ニ出ル  
双方ヨリ扶杖在ル  
道ヲカテテ披クナリ  
此行列近代ノ  
趣

袴ハ昔ハカカラ足  
男ニ有テ小袖ヲ入レモノナリ  
唐ヒツハ長ニ足ニ本幅  
ニツ完是モ装束ヲ入ル  
モノナリ  
甚皮篋ハ草ツラコ  
小袖ヲ入ルナリ  
今ハ此品ハ畧スヘシ  
兼若ハ天兜ノ傳子ナ  
張子シイニハナリ竹  
守ヲ入ル  
房ハ隔先兼スルコ  
舞方奥中ノ玄關  
ヨリ出テ一様ノ白ニ  
三ノ間ノ出

續甘室ハコシノ巻長カ  
ヨリ改ハニルモモエ

傘ハ今略テナシ  
宮家又國家以上ハ  
可有之

袴ハ阴阳ヲ張テ  
一様ナリ  
蓋目一本露ノ本白  
ナリ何モ白餅ノ袋  
ナリ

中老奥掃ヲ返ス  
行列ナリ

腰袋

一番

腰袋

二 三 簀原四

△里ノ水トテ掃ス  
一若昔行列先  
モタセ男ノ并成  
入ルナリ  
△松明モ羽ノ松明  
一並對先ノモタセ  
男ノ方ノ松明ト  
一所ニテトモニ  
火ヲ筒  
此松明今モ用ル  
ナリ有儀ノ袋ニ  
入モタセルナリ  
スルナリ

袴  
九 袴箱 六  
袴箱

七 貝桶 八 雲卷 九 傘 十 中老 十一 長刀 十二 十三

蓋目

袴箱

袴箱

〽

口脇指袋入

燈姚公本式黄氏  
昏礼三月今多  
ヒルニ不用

供乗物ハ巾也  
奥内玄關ヨリ上  
ノヨリ今五六人ヲ  
用ユ

雨具ハ勤基ニ入  
ユタシアリ

供燈姚モヒルノ  
昏礼ニ不用

供馬モ輿脇ノ侍  
ノ供馬ナリ

帳付ハ直ニ跡ヲ付テ  
去キセルナリ

中老ノ供馬格別ニ  
跡ヲルヘシ

此行列ニ臣師モ  
是リアルヘシコシノ  
アトハ付

燈姚

侍

十四日

十五日

燈姚

燈姚

今日

今日

十九

二十

此處ニ  
地行ナリ

跡本ハ家老トシ  
奥版ナリ是モコレノ  
アハニ付テ行列スル  
ヤヨシ  
是コレハ何モ歩行テ  
供スルナリ屋敷ノ固  
對シ乗馬セス

一家ノ内トアルハコレ送ノ  
人ナリ是ハ乗馬スル  
ナリ舞ノ方ニテ表  
立開ト通ルナリ  
尉ナリ必舞并一類  
對面アリテ披ラル

四十九

鈍子提之卷

四 四 四 四 四 四  
四 四 四 四 四 四

一文字ハ上ノスル所  
昔ハ片口ニ順ノ口  
常ニ用包テヨシ  
並ニ軍陣首ノ酒  
ヲ手ル片又切服人ニ  
吞スル中用包テナシ  
今西口ニ用ルテ私  
仍常ニ送ノ口ヲナキ用

口ニ礼ニ順ノ口ヲ塞  
上古ノ昔カト不包後世  
文飾ニ包ケナリ

ソキ能ハ接サシト由ニ  
軍陣首ニモルメナク

一文字

楯足  
魚柄  
折目  
長柄

蔓

つまみし  
魚食  
二責  
附海  
下責  
芝ヤドミ  
吹の口  
活  
芝クミ  
送乃口

口

芝クミ

富尾七寸

富尾五寸

ね長市紙

蔓

富尾九寸



男瓶子

女瓶子

一 瓶子包やりの事 一 枕多きゆは  
 兼金ノ上信目言 一 枕多きゆは  
 目ニアルカヨシ併大  
 小ニテ大り四ツ目ニテ  
 モヨシ  
 水コキニタル元結  
 包所文ナルニ水コキ  
 ノ元結ノ数ヲ用  
 七セハ八宿ノ年  
 宿ヲ除数ヲ取テ用  
 元結ノ留ハ五形ニス  
 ルカヨシ  
 富ノ尾ハ包タル帝  
 Pニリナリ紙ヲ切  
 ラヌハ質ナリ  
 逆ノ口ニ結ハ日  
 月星三ノ表ス  
 順ハ紙標ノ水コ  
 キヒスヲ云質  
 一 渡の節月の事 法紙巻二節

満ハラカキ石元ラ  
神ノ心ナリ

提子ハ月ニ象リ陰  
ナル故ニ調教ニクサレガ  
ヨシ十二ニ用ルテ古

瓶子ハ神佛ニ奉レ  
故ニ紙ヲ四ツ用ニヒカ  
九帝ノ形ニ蝶ヲ  
折ルテ質ノ礼也

瓶子ハ蚕ノ虫白蝶ニ  
変スルヲ云ナリ

一 瓶子包やりの事 一 枕多きゆは  
 兼金ノ上信目言 一 枕多きゆは  
 目ニアルカヨシ併大  
 小ニテ大り四ツ目ニテ  
 モヨシ  
 水コキニタル元結  
 包所文ナルニ水コキ  
 ノ元結ノ数ヲ用  
 七セハ八宿ノ年  
 宿ヲ除数ヲ取テ用  
 元結ノ留ハ五形ニス  
 ルカヨシ  
 富ノ尾ハ包タル帝  
 Pニリナリ紙ヲ切  
 ラヌハ質ナリ  
 逆ノ口ニ結ハ日  
 月星三ノ表ス  
 順ハ紙標ノ水コ  
 キヒスヲ云質  
 一 渡の節月の事 法紙巻二節

性昔継母子ヲ惡テ  
食毒ヲ入レテ子ニ與ラ  
膳ノ人ニ是ヲ子ニ告  
夜ニ子竹林ニ食ヲ持  
行竹ノ切口ニ捨テ棄  
テ以テ塞テ置陰ス  
其ノ良蒸テ酒トナル  
其味ヲ諸蝶集吸  
後世是ヲ以テ異名トス  
初ハ麴酒ナリ  
此驗ニ芭葉 芭葉ヲ  
門ニ出ス

事余ノ孫ノリ又蝶ハ酒ノ  
而シテ一蝶ノよハ初ハ酒  
をス初ハ事ハ竹林ノ切口  
切ノカニ酒ヲ置テ其味  
ニシテハ蝶ノ多クハ人ニ  
其味ニシテハ蝶ノ多クハ  
其味ニシテハ蝶ノ多クハ  
其味ニシテハ蝶ノ多クハ

天竺ニテハ杉ノ木ノ  
中ヨリ酒ヲ求メテ  
古事アリ仍テ杉ノ  
葉ヲ驗トス

此酒ノ味ニシテハ蝶ノ多クハ  
其味ニシテハ蝶ノ多クハ  
其味ニシテハ蝶ノ多クハ  
其味ニシテハ蝶ノ多クハ

鉈子大小有シテ  
ヨル中 酌ニシテ  
用ニシ

鉈子寸法ニテハ寸八分長  
寸五分長柄ニテハ寸二  
寸五分長柄ニテハ寸二  
寸五分長柄ニテハ寸二

鉈子大小有ナリ  
此寸ハ大ナリ七寸又  
八寸ヲ通用トス  
鉈子ハ鉈子ヨリ尊シ  
神佛ニ奉備故ナリ  
カノダイトハ中ニ置テ  
上ノアキナラニ云

三寸五分ノ外口有シ  
一鉈子寸法ニテハ寸八分長  
寸五分長柄ニテハ寸二  
寸五分長柄ニテハ寸二

小笠原大膳太夫  
長暇

右合冊一部  
自...  
免傳...  
...  
...

松園清助

大正  
三月

辰方  
六

八幡寺一及

